

日本大学 大学院 文学研究科

Graduate School of Literature and Social Sciences,
Nihon University

2021



思考の冒険はつづく。

文学研究科長からの メッセージ

大学院こそ、新たな知性と感性とを開拓する場所である

人類は大きく進歩してきましたが、私たちを取り巻く世界は、依然として見通しがつきたく、ますます不透明さを増していると言えるでしょう。人工知能（AI）が仕事や日常を一変させる、超スマート社会（Society5.0）が来ると言われても、それが具体的にどうなるかは分かりません。むしろ、言葉だけが踊り、手応えや感触は希薄になるばかりです。自分たちを過剰に管理して自縄自縛に陥り、生きづらさを抱えた高度ストレス社会になっているのが実情です。だからこそ、私たちはしっかりと自己を見つめ、自分たちを成り立たせている歴史や社会、文化の特性を見極め、確実な認識を積み上げていかなければなりません。人文科学、社会科学をふくめた「文学」の意義はそこにあります。

学部で学問のおもしろさを知った人にとって、大学院こそ、みずからの知性と感性を開拓する場所になります。現実に分け入り、世界の仕組みを学び、自分と世界との関係を考え、その関係を少しずつ作り直していくこと。不透明な世界に灯をとますためにも、「生きた学問」をぜひここで学び、身につけていただくことを願っています。

とりわけ2020年度からは、本研究科に日本語教育コースが新たに設置されました。どの専攻に入学したとしても、その主専攻の他に、このコースを履修することができるようになりました。これから、日本にもさまざまな言語を第1言語とする人々が共に並んで暮らす時代が到来することは確実です。日本語のリテラシーを教え、国籍や民族、文化の壁を超えたコミュニケーションを創り出す能力は今後ますます重要になるでしょう。日本語教師の資格取得を目指すためにも、ぜひ、このコースを活用してください。



日本大学大学院文学研究科長
紅野 謙介

文学研究科の概要

日本大学大学院文学研究科は、文理学部の人文・社会系学科を母体として成立し、博士前期課程（2年制）では9専攻、後期課程（3年制）では10専攻を設置し、人文科学・社会科学の学問伝統と、21世紀の最新の学問動向を接続する役割を果たしています。これまでも次代を担う研究者の養成とともに、優れた専門知識と実践力をもった職業人の育成を行ってきましたが、さらに複合的・学際的な教養や基礎的な学問を積み重ね、より発展的で高度な学問の持続と、多様化する現代のライフステージに合わせた専門教育を提供していきます。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中の自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- 社会に貢献する姿勢
社会に貢献する姿勢を維持することができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

- [自ら学ぶ]
 - 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
 - 世界の現状を理解し、説明する力
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。
 - 社会に貢献する姿勢
社会に貢献する姿勢を維持することができる。
- [自ら考える]
 - 論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
 - 問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。
- [自ら道をひらく]
 - 挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
 - コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
 - リーダーシップ・協働力
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
 - 省察力
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

目次

- 02 文学研究科長メッセージ
- 04 教育情報
- 06 日本語教育コース/アカデミック・ライティング
- 07 教授・大学院生インタビュー
- 08 専攻紹介 哲学専攻
- 10 専攻紹介 史学専攻
- 12 専攻紹介 国文学専攻
- 14 専攻紹介 中国学専攻
- 16 専攻紹介 英文学専攻
- 18 専攻紹介 ドイツ文学専攻
- 20 専攻紹介 社会学専攻（社会学コース）
- 22 専攻紹介 社会学専攻（社会福祉学コース）
- 24 専攻紹介 教育学専攻（教育学コース）
- 26 専攻紹介 教育学専攻（体育学コース）
- 28 専攻紹介 心理学専攻
- 30 奨学金・研究奨励費制度（概要）
- 31 研究サポート

教育情報



教育研究上の目的

人文科学・社会科学の学問をそれぞれの学問的な特性を尊重しつつ、理論的な探求から実証的研究、先端的な実験・実習までをとり込んだ創造的かつ実践的なカリキュラムを用意し、言語と人間、歴史と文化、心と身体といった普遍的なテーマについて思索を積み重ね、社会的貢献度の高い研究者・教育者など、ゆたかな知性と感性を持った人材を養成する。

他の大学院の授業に参加

- ・首都大学院コンソーシアム（専修・中央・東洋・法政・明治・共立女子・玉川大学大学院等）
- ・国文学・国語学分野の単位互換制度（駒澤・鶴見大学大学院） ・日本大学大学院相互履修（日本大学の他の研究科）

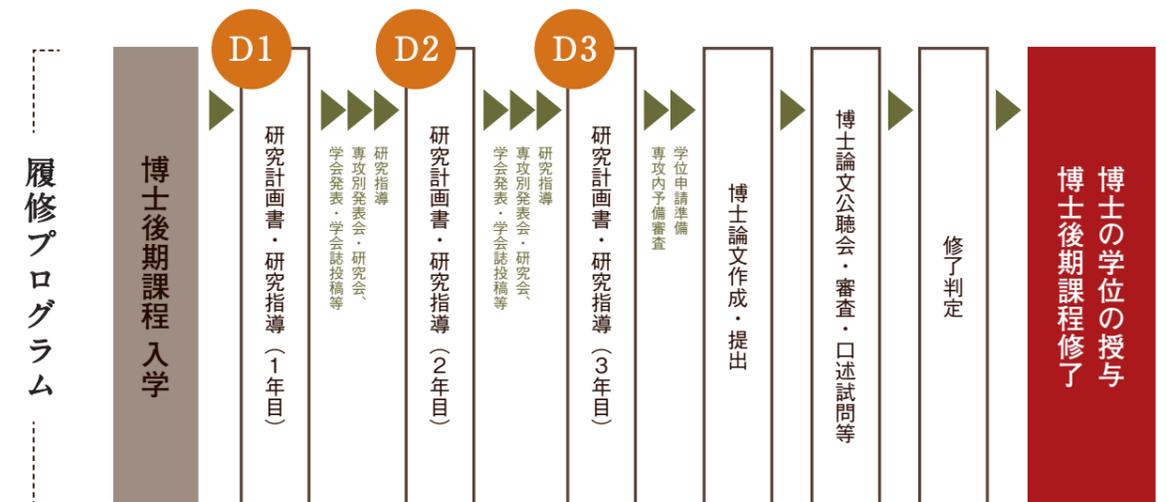
文学研究科の組織

博士前期課程

哲学専攻	社会学専攻（社会学コース）
史学専攻	社会学専攻（社会福祉学コース）
国文学専攻	教育学専攻（教育学コース）
中国学専攻	教育学専攻（体育学コース）
英文学専攻	心理学専攻（心理科学コース）
ドイツ文学専攻	心理学専攻（臨床心理学コース）

博士後期課程

哲学専攻	ドイツ文学専攻
日本史専攻	社会学専攻
外国史専攻	教育学専攻（教育学）
国文学専攻	教育学専攻（体育学）
中国学専攻	心理学専攻
英文学専攻	



2020年4月 開講

日本語教育コース / アカデミック・ライティング

日本語教育コース

日本大学大学院文学研究科国文学専攻に「日本語教育コース」を新設します。「大学院基礎コース」と「大学院応用コース」の2つのコースが開講されます。「大学院基礎コース」は、人文系・社会系・理学系の研究科・専攻を問いません。自分自身の専門を深めながら日本語教育の基礎スキルの獲得を目指すことができます。一方、「大学院応用コース」は、実践力の高い専門職としての日本語教師の育成を目指します。「大学院基礎コース」は日本語教育を専門としない学生にも開かれており、日本語教育の基礎的な知識を学びます。さらに「教育実習」では日本語教育の実践的な力を養います。「大学院応用コース」科目として開講される「特殊講義」「専門演習」では日本語教育学・日本語学の高度な知識、研究を学び、問題解決能力の養成を行います。「総合研究」では先端的な研究を学び、応用力・実践力を養います。

大学院 基礎コース 応用コース

日本語教師としてより専門性の高い知識・スキルを獲得

「大学院基礎コース」は、学部が開講される「学部基礎コース」より高度で、かつ、専門的な内容を取り扱います。そのため、「学部基礎コース」修得済みの場合においても、博士前期課程において「大学院基礎コース」並びに「大学院応用コース」修了を目指す場合は、「大学院基礎コース」修得が必須です。「大学院基礎コース」「大学院応用コース」、いずれも指定の科目群から所定の単位数を修得すると、博士前期課程修了時にそれぞれのコースの修了証明書が発行されます。なお、国文学専攻日本語教育コースでは、同コース所属の教員が指導教員となり、日本語教育をテーマとした修士論文・博士論文を執筆することが可能です。

日本語教育コースの3つのポイント

point 1 コース修了後、日本語教師として働く前提となる履修証明書を発行します。民間試験である「日本語教育能力検定試験」の合格証明とともに、この証明書があなたのキャリア形成に効力を発揮します。

point 2 日本語教育コースで修得した単位は、専攻によって修了要件単位に含まれるよう計画しており、それぞれの専門を修得しながら、日本語教育を学ぶことができます。

point 3 海外から日本に来て働く人が増える中、企業でも多様な人材育成の鍵として日本語教育の知識・スキルが重視されています。日本語ネイティブの学生にも海外の学生との交流の機会を提供し、多様化する社会に応える人材を育成します。

▶ 日本語教育コースに関する詳細は、QRコード又は下記のアドレスからアクセスしてください。

https://www.chs.nihon-u.ac.jp/japanese_education/



アカデミック・ライティング

日本語と英語で学術的な文章を書くための基礎的スキルの獲得を目指す「アカデミック・ライティング」を大学院に新設します。アカデミック・ライティングは、日本語/英語での学術論文執筆のための技能を修得するための「アカデミック・ライティング」及びその技能の指導法を学修するための「アカデミック・ライティング指導」によって構成されています。

アカデミック・ライティング（日本語/英語）を開講

人文系・社会系・理学系の様々な専攻の学生が履修することを前提に、学術論文の執筆で求められるアカデミック・ライティング技能の育成を目的とする。例えば、各自の研究テーマ・研究計画に関する課題文章を書けるように、実践的・個別にトレーニングする。①内容、②構成、③文体、④文献リサーチ、⑤引用方法という観点（ルーブリック）から学ぶ。

アカデミック・ライティング指導（日本語/英語）を開講

将来のTAやインストラクターを含むアカデミック・ライティング指導者の育成を目的とする。例えば、対面による一対一のライティング指導（チュータリング）の技能を身につけるために、①文章力、②文章診断力、③文章指導力を段階的に学び、受講者同士による実践的トレーニングを行う。

教授・大学院生

インタビュー



フィールドワークで現場の声を取り上げ 新たな知の世界を知るのが社会学のダイナミズム

社会学専攻（社会学コース） 教授 ^{いしおか ともり} 石岡 丈昇

私が研究している社会学は、日常を多角的に見ることで、自分の思考の枠組みを押し広げ、社会の多様性を説明していく学問です。一例として私は今、フィリピン・マニラの貧困の研究をしています。ジャーナリストのように状況の中に入る「参与観察」というフィールドワークが調査スタイルですが、スラム街のお通夜の現場に遭遇した際に驚いたのは、棺の前で死者を見送る人たちが、ギャンブルに興じていたことです。実はこれには訳があり、勝った人はその金額の15%を喪主に払うルールがあるのです。彼らにとって特定の個人が金銭を与えることは、権力による支配関係となり、社会関係を規定してしまっています。ギャンブルを通じて「個人のお金」を「みんなのお金」に変換することで、絶妙なバランスで貧困社会での助け合いが成立し、同時にお金のしつけの役割も果たしている。生きる知恵として非常に魅力的です。

学生に薦めたい本
『質的社会調査の方法 - 他者の合理性の理解社会学 -』
著：岸 政彦、石岡 丈昇、丸山 里美

また、私自身が卓球に熱中していた経験から、身体ひとつで生きている世界を知りたいと、マニラのスラム街に隣接するボクシングジムに住み込み調査を行いました。そのきっかけは日本にいるフィリピン人出稼ぎボクサーの存在です。彼らは才能のある日本人ボクサーを育てるための咬ませ犬の役割を担っています。スターボクサーを育てるために、貧しいフィリピンからボクサーが連れ

てこられるという背景や、人を育てる仕組みの複雑さを知りました。

これから皆さんが進む大学院では、常にアウトプットが求められます。学部までの授業では教員の話すことを理解するスタイルが一般的ですが、大学院ではそれは大きな間違いです。私は大人数の講義であっても、どんどん学生にマイクを向け前に出て話してもらいます。学生との対話を大事にしています。そして、講義で議論したことを教室の中で完結させないで、例えば自分のアルバイトの現実と突き合わせるなど広げてみて、それをまた教室にフィードバックして議論を深化させていく学びが大事です。

私が日本大学の社会学専攻で研究をしたと思った大きな理由は、社会学専攻のスタッフの充実ぶりです。日本の社会学の世界で名の通った先生方、現役でいい仕事をしている先生方が数多く在籍していることは、同僚として誇りに思います。社会学を研究したい学生に対しては、専門的な学知とトレーニングに基づいた学びを与えてくれる先生方ばかりなので、必ず充実した大学院生活を過ごせるはずです。



ジョン・ミルトンの『楽園の喪失』研究を深めるため 日大の海外派遣奨学生としてフランスに留学します

英文学専攻 博士後期課程 1年生 ^{あまがい きな} 天海 希菜

私の研究テーマはジョン・ミルトンの『楽園の喪失』です。宗教や神話、政治など、当時の様々な要素が盛り込まれており、研究者として将来的に色々な知識を身につけられるのではと決めました。聖書の創世記のadamとイブの話ですが、聖書では数ページに過ぎない内容を、壮大な一大叙事詩に脚色した大作です。作品には当時の美術なども多く取り込まれているほか、ミルトンはピューリタン革命の際に活躍した人物でもあり、暴君であった当時の王への批判と受け取れる要素も言葉の端々に盛り込まれているなど、当時の社会状況まで伺えて、何回読んでも新しい発見があります。ギリシャ・ローマ神話も多く登場しますが、キリスト教にとっては、どちらも異教の神々です。そこに興味を惹かれ、『楽園の喪失』におけるギリシャ・ローマ神話とキリスト教』というテーマで修士論文として完成させました。

お気に入りの本
『Milton: Paradise Lost
(Longman Annotated English Poets)』
著：ジョン・ミルトン

中学2年から高校卒業までオーストラリアのブルーマウンテンに5年間留学していて、文学も好きなので英文学科に進みました。日本大学に決めたのは、帰国子女枠で受験した際に面接官の方の「将来どういう道に進むことになっても頑張ってください」の一言でした。すごく優しく、こんな素敵な先生がいるのだと入学を決めました。

実は私は大学院に進学する予定はなく、学部を卒業後、民間企業に就職しています。卒論は「不思議の国のアリスとマザーグース」がテーマでしたが、卒業式の日に卒論指導の先生が言ってくださった「いい卒論でした。大学院に進んだ方が良かったのに」の言葉が心に残り、私自身、卒論を研究しながら、増えた知識が文学に結びついていく過程がとても楽しかったので、半年後くらいにもう1度先生に相談して受験を決めました。

今は研究の合間に週に3日、付属高校の非常勤講師として教えています。昨年の6月にはミルトンの国際学会がフランスであり、発表する先生と先輩に同伴して参加するという、貴重な経験をさせていただきました。そして今年、日本大学の大学院海外派遣奨学生としてフランスに1年間留学します。「ミルトンの民主主義的思想のフランス革命への影響について」というテーマで研究を深めたいと思っています。

日本大学の英文学専攻の魅力は、英文学以外にも英語学、英語教育、古英語など様々な分野の先生がいらして、気にかけてくれることです。なんでも聞きに行きやすいし、分野を超えて知識が融合することで、私の志す英文学の研究者・教育者に近づける環境があると思います。

哲学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻では、知識と存在に関する分析・考察を行う哲学、人生の意味と行為の規範を探究する倫理学、美と芸術の本質を探究する美学、そして人間と聖なるものとの関わりを探究する宗教学の4分野で、学生の多様な問題関心に応えられるカリキュラムを用意しています。

前期課程1年次では、過去から現在に至る哲学の歴史を踏まえつつ、学生諸君が自力で明晰判明な思考を行うことができるようになるためのトレーニングを行います。そして1年次の後学期以降に、学生自らがテーマを設定し、先行研究を踏まえ上で思索を展開し、最終的には修士論文を執筆することになります。前期課程では、教育研究機関で引き続き研究に従事する人材だけでなく、広く社会で活躍できる人材の養成を目指しています。中学校教諭専修免許状(社会)、高等学校教諭専修免許状(公民)が取得可能です。

博士後期課程

本専攻では、知識と存在に関する分析・考察を行う哲学、人生の意味と行為の規範を探究する倫理学、美と芸術の本質を探究する美学、そして人間と聖なるものとの関わりを探究する宗教学の4分野で、学生の多様な関心や問題意識に応える指導を行います。

後期課程では、学生が主体的に自らの研究を推し進め、博士論文を書き上げることが目標となります。そのため、本専攻では、指導教授による博士論文指導に加えて、各自が書き進めている博士論文の中間発表の場として、毎年1回のコロキウムを開催しています。コロキウムでは、すべての教員とすべての学生が一緒になって問題の所在や改善点を議論し、博士論文執筆の手助けをします。

実績としては、平成29年度のコロキウムでは1名の発表が行われました。平成28年度には2名が学位論文「帰納を巡る一般化と未来の問題」及び「古代インドにおけるアスラの変容に関する研究」により「博士(文学)」の学位を取得しました。

主な開講科目

哲学特殊研究1

知覚をめぐる哲学的問題について、議論の現状を踏まえて、参加者とともに議論する。哲学的議論を理解するだけでなく、自前で哲学的議論を構成できるようにする。

哲学演習1

科学哲学、言語哲学、心の哲学などにおける重要な文献を、原語(主に英語)で読み、ディスカッションを行う。そのような分野を専門としない人でも、参加可能。

倫理学特殊研究1

院生の発表形式で行う。学会発表と似ているが、発表後の議論に長大な時間(長いときは3、4時間)をかける点が違う。討論ではない精緻な議論の仕方を学ぶ。

美学演習5

厳密な意味での現代美学の英語文献をとりあげ、精読する。激しく変動している現代美学の思潮を学ぶとともに、テキストの読み方を習得し、英語の読解力を鍛える。

宗教学演習3

日本仏教に関する資料(古文・漢文)を取り上げ、それらを正確に読解する能力を培うことが目的である。また、テキストの音読はもとより、その都度、丁寧に疑問に答えながら、資料に馴染むように工夫している。

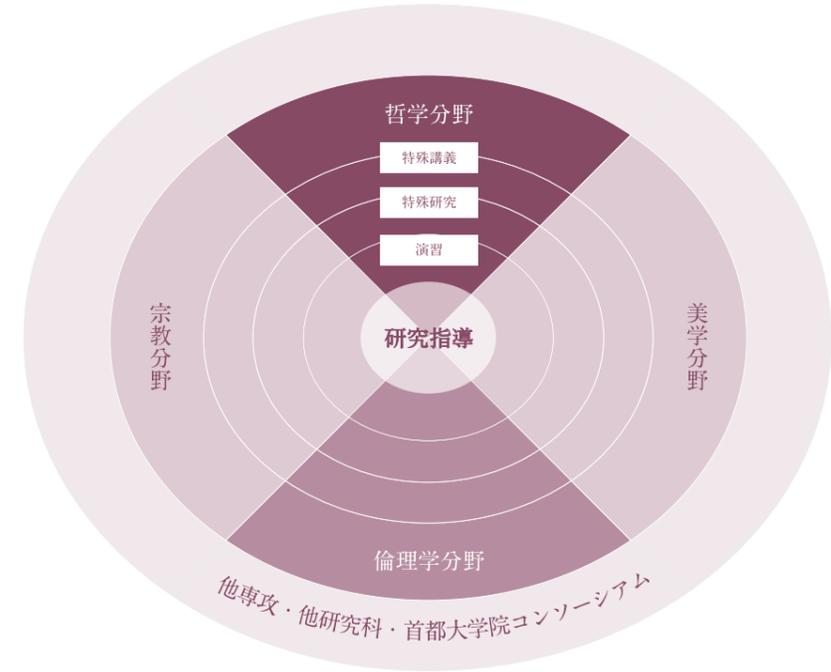
教員紹介(科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○合田 秀行 教授	仏教学、比較思想
○小林 紀由 教授	宗教学

教員名	専門領域
○高橋 陽一郎 教授	美学
○古田 智久 教授	認識論、言語哲学

履修系統図



入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

哲学専攻は、哲学、倫理学、美学、宗教学の各分野、それらを相互に融合した分野並びに関連分野も含む学際的分野において、創造力と幅広い視野を合わせ持ち、社会に対して積極的に貢献できる専門的知識を有する教養人、研究者、教育者を育成することを目的とします。

本専攻は、もっとも長い歴史を持つ学問である哲学の遺産を引き継ぐとともに、現在の社会が直面する新たな問題に取り組むための、粘り強い思考力と優れた基礎的学力を持ち、熱意のある学生を受け入れます。

具体的には、次のような学生の入学を許可します。

- ・英語をはじめとする語学力を備え、真理探求への熱意と忍耐力を持つ学生
- ・広い知的な好奇心を持ち、新たな知識の獲得と問題解決への熱意を持つ学生
- ・国際的な視野を持ち、異なる考え方を持つ相手とも議論を通じて相互理解を目指すことのできる学生
- ・哲学の専門的知識を通じて、社会への貢献を目指す学生

教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

哲学専攻では、哲学、倫理学、美学、宗教学という4分野を置いています。しかし、これら4つの分野は相互に密接に関連していますので、学生の知的関心に応じて、部門にこだわることなく広い範囲の科目を履修することができるように配慮しています。

多くの授業は、一方的な講義というよりは、参加者全員によるディスカッション主体のゼミナール形式であり、講義という形を取っている授業であっても、参加者からの質問やコメントに応じて進行します。こうしたディスカッションを通じて、論理的思考力とコミュニケーション能力を養い、哲学的問題に主体的に取り組む姿勢を身につけてもらうことを目指します。

博士前期課程においては、1年次から、アドバイザー制により、哲学・倫理学・美学・宗教学についての基礎知識の習得及び修士論文を目標とする研究課題の決定のための個別指導を受けることができます。

博士後期課程においても、指導教員による研究指導は引き続き行われますが、その重点は、学生が独力で、問題の設定からその解決までできるようにすることです。同時に、論文作成における様々なアドバイスを行うとともに、研究成果発表の際のプレゼンテーション能力の強化を図り、学会における研究成果発表並びに博士論文作成の手助けをします。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

哲学専攻では、過去の哲学の遺産を継承しながら、現代社会が提起する哲学的問題に取り組むことができる、国際的視野を備え、専門的知識と論理的思考力によって、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

[博士前期課程]

哲学の専門的知識を習得し、論理的思考能力並びにコミュニケーション能力を身につけ、自らの知識と能力を実社会に活かそうとする姿勢をもてることが、課程修了の基準です。

[博士後期課程]

哲学研究者として自立できるための、高度の専門的知識と能力を身につけ、独力で新たな哲学的問題を見つけ解決を図ることができるようになることが、課程修了の基準です。



修了生の進路

- 日本大学豊山女子中学校・高等学校
- 千葉県鎌ヶ谷市役所
- (株) IDCフロンティア
- (株) ハウス・トゥ・ハウス・ネットサービス(株)
- 敬愛大学
- (学) 鶏鳴学園
- (株) ジョイフル本田
- 猿田彦珈琲(株)
- 横浜商科大学高等学校
- (株) 三越伊勢丹
- 日本ソフトウェア(株)
- 白馬観光開発(株)

史学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、学位（修士）論文を執筆し、豊かな歴史的学識をもって社会に貢献できる人材を養成することを目標としています。史学専攻に所属する教員の研究対象は、日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近現代史、東アジア前近代史、東アジア近現代史、イスラーム史、西洋前近代史、西欧近現代史、東欧・ロシア近現代史、日本考古学、東アジア考古学、日本文化財学などで、学生はこれらの地域・時代のなかから各自が専門とする分野を中心に講義・演習を受講して、自己の研究の糧とします。さらに、学生は指導教員のもとで自らの研究課題に応じた史・資料の収集、読解を行い、自己の研究を深めて、修士論文を執筆していきます。

なお、史学専攻では、中学校教諭専修免許状（社会）及び高等学校専修免許状（地理歴史）の取得も可能であり、より高度な専門性を持った教育者の育成にも力を注いでいます。

博士後期課程

日本史専攻博士後期課程では、自立した研究者・教育者を育成することを目的としています。日本史専攻に所属する教員が研究対象とする時代・分野などは、古代史、中世史、近世史、近現代史、日本考古学、日本文化財学などです。学生は、自己の研究分野に応じた教員の指導のもと、それぞれの研究課題に関連した文献史料・考古資料などを精査し、史・資料を検索、調査、分析する能力の向上を計ります。さらに、先行論文を細読して、自己の研究意義を明確にした上で、学会報告や学術論文の作成を行い、課程博士の学位取得を目指します。

外国史専攻博士後期課程では、自立した研究者・教育者を育成することを目的としています。外国史専攻に所属する教員が研究対象とする時代・分野などは、東洋前近代史、東洋近現代史、西洋前近代史、西欧近現代史、ロシア・東欧近現代史、東アジア考古学などです。学生は、自己の研究分野に応じた教員の指導のもと、それぞれの研究課題に関連した文献史料・考古資料などを精査し、史・資料を検索、調査、分析する能力の向上を計ります。さらに、先行論文を細読して、自己の研究意義を明確にした上で、学会報告や学術論文の作成を行い、課程博士の学位取得を目指します。

主な開講科目

日本史特殊講義 1

受講生の専門分野で中心課題とする内容をテーマとし、その実像を把握することを目的とする。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。

日本史演習 3

受講生の研究課題をテーマとし、修士論文の執筆に至るまで研究を深化させる。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。

東洋史特殊講義 7

近現代中国史に関する修士論文作成の前提となる史料分析能力の獲得をめざす。中国行政公文書などを史料テキストとして、参加者全員で輪読し、その成果に関して参加者全員で議論を行う。

西洋史演習 3

西洋前近代史の諸問題について、ギリシア語、或いはラテン語で書かれた史料の講読と研究発表、ディスカッションにより理解を深め、新たな視点を探る。

考古学演習 1

材質・形態・機能・用途などが多岐にわたる考古資料の知識・特性などを習得することを目的とする。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。



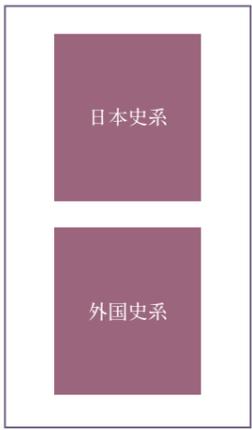
教員紹介（日本史専攻）（科目担当者含む）

教員名	専門領域
○ 濱田 晋介 教授	日本考古学、縄文・弥生時代の研究、土器・集落研究
○ 平野 卓治 教授	日本古代史、文化財学、資料論、博物館経営論
○ 古川 隆久 教授	日本近現代史、政治史、社会史
○ 山本 孝文 教授	東アジア考古学、古代国家形成論、古代交流史
小川 雄 助教	日本近世史、江戸幕府論
関 彦彦 教授	日本中世史、鎌倉幕府論、武士論

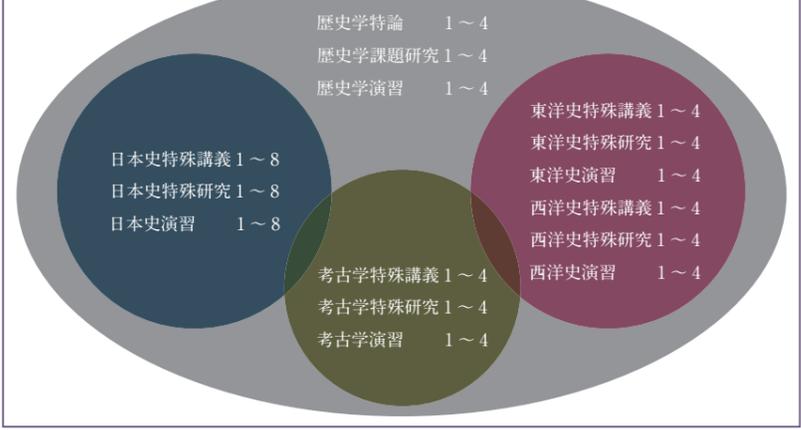
教員紹介（外国史専攻）（科目担当者含む）

教員名	専門領域
○ 粕谷 元 教授	近代イスラーム思想史、トルコ近現代史、カリフ論
○ 加藤 直人 教授	北・東・中央アジア史、清朝史、文書史料学
○ 土屋 好古 教授	西洋近現代史、近代ロシア史
○ 松重 充浩 教授	中国近代史、日中間係史、東北アジア地域史
○ 森 ありさ 教授	西洋近現代史、アイルランド近現代史、第一次世界大戦研究
伊藤 雅之 准教授	西洋古代史

履修系統図



合計 30 単位



入学者受入方針 （アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】
史学専攻博士前期課程では、日本史・東洋史・西洋史・考古学の研究を深めることで、幅広い視野を養い、正確な歴史像把握の方法を身につけ、研究者・教育者を中心に、社会に対して積極的に貢献できる学生を育成することを目的とします。

【博士後期課程】
史学専攻博士後期課程では、その教育理念に基づき、学位論文の執筆・完成によって、学識豊かな人材を育成していくことを目的とします。日本古代史・日本中世史・日本近世史・日本近代現代史・東アジア前近代史・東アジア近現代史・イスラーム史、西洋前近代史、西欧近現代史、東欧・ロシア近現代史、日本考古学・東アジア考古学に重点を置いて設置された開講科目の中から、複数分野にわたって必要単位数以上を習得する必要があります。また、指導教員の指導のもとで所定の修業年限内に、歴史学の研究に関する学会・研究会において研究報告を行い、専門分野の研究の成果として修士論文を作成し、学位論文審査及び外国語試験に合格した者に対し、修士（文学）の学位を授与します。在学期間を通じて、歴史学に関する、専門的で幅広い知識及び高度な一次史料の分析能力を身につけるとともに、研究分野以外でも、必要とされる知識の習得、理解を自発的に入る能力を習得することが課程修了の基準です。

【博士後期課程】
【日本史専攻】
日本史専攻博士後期課程では、日本史又は日本考古学の分野において、博士前期課程において培ってきた歴史学に必要な理論、方法論を実践的に、かつ、より専門的に深めていくと同時に、それぞれの研究課題を、指導教員の指示に従って、学術的に高い水準を目指して追究していきます。

学生は、各自が専攻する時代・ジャンルにおける史・資料及び先行研究の広範な渉猟と分析を行い、また、その他研究上必要不可欠な情報を、自ら能動的に探究・習得します。さらにそうした成果に基づいて、研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿可能なレベルの学術論文を作成します。学習及び研鑽の成果を活かし、将来的には高度な学識を持つ研究者又は教育者として自立するための、学術研究の一つの集大成である博士論文の作成にも繋がるように、各自に必要な指導を適宜行っていきます。

【外国史専攻】
外国史専攻博士後期課程では、東洋史、西洋史又は東アジア考古学の研究分野において、博士前期課程において培ってきた歴史学に必要な理論、方法論を実践的に、かつ、より専門的に深めていくと同時に、それぞれの研究課題を、指導教員の指示に従って、学術的に高い水準を目指して専門的に追究していきます。

学生は、各自が専攻する時代・ジャンルにおける史・資料及び先行研究の広範な渉猟と分析を行い、また、その他研究上必要不可欠な情報を、自ら能動的に探究・習得します。さらにそうした成果に基づいて、研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿可能なレベルの学術論文を作成します。学習及び研鑽の成果を活かし、将来的には高度な学識を持つ研究者又は教育者として自立するための、学術研究の一つの集大成である博士論文の作成にも繋がるように、各自に必要な指導を適宜行っていきます。

教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）

学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）

修了生の進路

- 日本大学教職員
- 国立大学法人東京学芸大学
- 独立行政法人国立公文書館
- 埼玉県教育委員会
- (株)伊豆急ケーブルネットワーク
- 日本大学藤沢高等学校
- 国立国会図書館
- 岐阜市立図書館
- (株)図書館流通センター
- (株)ノジマ
- PCIソリューションズ(株)

国文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻は、日本大学文理学部国文学科の卒業生をはじめ、他学部や全国のさまざまな大学からの卒業生、海外からの留学生、社会人など多種多様な人材が集う研究機関です。博士前期課程では、上代から近現代までの日本文学と、日本語学のあらゆる領域を研究対象とし、実証的な研究活動を最新の理論に基づいて行います。また、中学校教諭専修免許状（国語）、高等学校専修免許状（国語）の取得を目指す人のために、日本語への深い理解と文学作品の魅力を伝えることのできる国語科教員養成プログラムを強化・充実させています。

博士後期課程

博士後期課程では、それぞれの専攻分野について研究者として自立した研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び基礎となる豊かな学識を養います。21世紀の人文科学を先導する研究者・教員などの人材を育成します。日本大学国文学会が発行している学術雑誌「語文」や本専攻発行の「国文学専攻論集」などの独自メディアによって研究成果や論文を発表することが可能で、課程博士の学位取得のための環境が整っています。

主な開講科目

特殊講義

教員の専門領域に関する講義を中心として、特定の研究テーマに絞って深く追求し、そのテーマに関する教員の考え方を述べるタイプの科目群。

基礎研究

古典文学から近現代文学、日本語学など、中学・高等学校の教員などを目指す場合に必要幅広い知識を、その分野を専門領域としない人にも身につけられるように配慮した科目群。

専門演習

特定の研究テーマに絞って、教員の講義だけでなく、大学院生の報告や作業も交えながら高度な研究を進めるタイプの科目群。

総合研究

文化・芸能・情報管理・教育など、いくつかの異なる学問分野を有機的につなぎ、複数の教員によって学際的な研究を行う科目群。

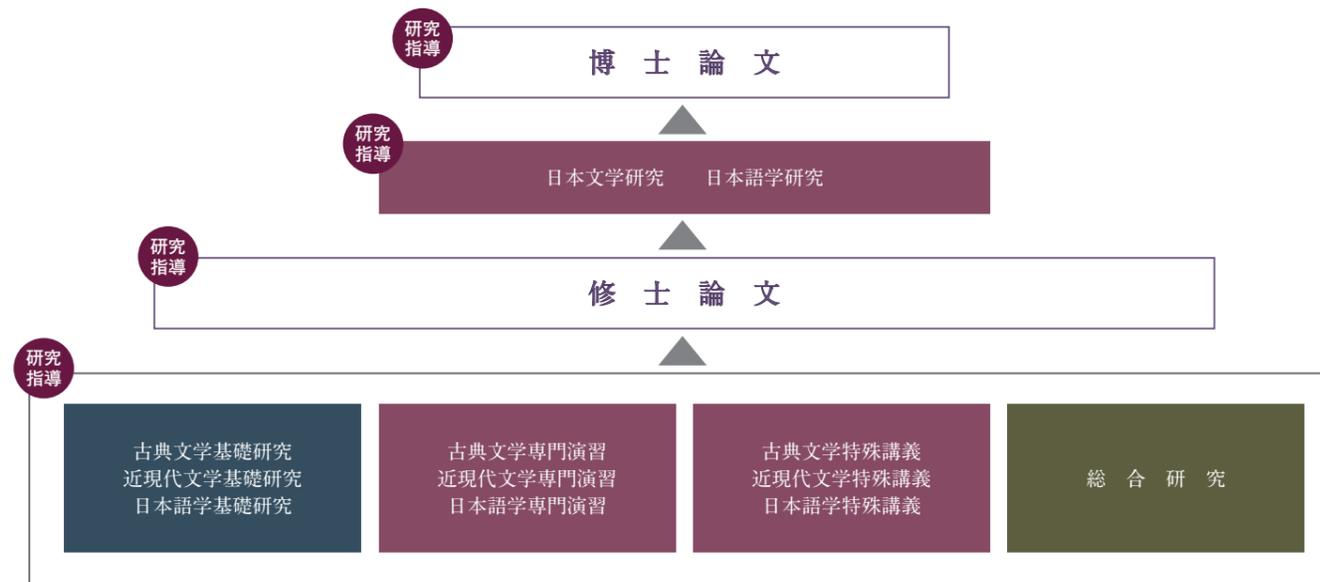
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
荻野 綱男 教授	日本語学、計量言語学
梶川 信行 教授	上代文学、万葉集
○久保木 秀夫 教授	中古中世文学、書誌学
○久米 依子 教授	近現代文学、児童文学
○高 榮蘭 教授	近現代文学、近代日本文学とナショナリズム
○紅野 謙介 教授	近現代文学、メディア論
○鈴木 功眞 教授	日本語学、日本語と辞書の歴史

教員名	専門領域
○武内 佳代 教授	近現代文学、ジェンダー批評論
○竹下 義人 教授	近世文学、浮世草子、俳諧
○田中 ゆかり 教授	日本語学、社会言語学、方言研究
○袴田 光康 教授	中古文学、物語文学
○藤平 泉 教授	中世文学、和歌文学
○高野 奈未 准教授	近世文学、古典注釈学

履修系統図



入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

国文学専攻は、上代から近現代までの日本文学と、日本語学のあらゆる領域を研究対象とします。そして、実証的な研究及び最新の理論と方法に基づく研究実践を通して、社会に貢献できる研究者・教育者をはじめとする有為な社会人を育成することを目的とします。したがって本専攻では、日本文学と日本語学に関する強い探究心と研究意欲を持ち、社会に貢献したいという熱意のある学生を求めています。

具体的には、次のような学生の入学を希望します。

- ・日本文学、日本語学に関する幅広い基礎的な知識を備えている学生
- ・知識の獲得、研究能力の向上に対して不断の努力を惜しまない学生
- ・広い視野に立ち、創造的な思考とそれに基づく議論のできる学生
- ・研究者、教育者として社会に貢献することを目指そうとする学生



教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

国文学専攻では、幅広い専門知識を備え、高い倫理観に基づく研究能力と問題解決能力を備えた有為な人材を育成するために、総合的で立体的なカリキュラムを編成しています。日本文学研究の分野では、上代から近現代までに関する「基礎研究」、「特殊講義」、「専門演習」、「総合研究」によって構成され、日本語学の分野でも、「基礎研究」、「特殊講義」、「専門演習」、「総合研究」によって構成されています。「特殊講義」と「専門演習」が専門科目の中心であり、高度な知識の獲得と問題解決能力の修得を目指します。また、「基礎研究」は、その分野を専門としない学生を主な対象とし、中学校、高等学校国語の専修免許の取得を目指す学生をも視野に入れて、幅広い知識の修得と大学院レベルでの学習基盤の形成を目指します。「総合研究」では、先端的で多面的なテーマに基づき、複数の教員によって学際的・実践的な内容の授業を行います。また、文学研究科の他専攻の授業、単位互換協定を結んだ他大学の授業を受けることでも、視野を広げることができます。前期・後期とも、在学期間を通じて、自立した研究者・教育者として社会に貢献できるように、毎年1回以上、研究報告をすることを課しています。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

【博士前期課程】
国文学専攻では、日本文学あるいは日本語学に関する高度な専門的知識を備え、一定の倫理観に基づいて研究活動をする自立した研究者を目指す人、あるいはその専門知識を前提に社会貢献のできる人に対して修士の学位を授与します。修士の学位を取得するには、カリキュラム・ポリシーに沿った日本文学、日本語学及び関連領域に関する必要な単位を取得する他に、文学研究科の決めた手続きに従って修士論文を書くことが必須です。修士論文は、指導教員のもとで各自の研究テーマについて研究を進めます。その内容は、当該分野の発展に貢献し、十分評価される部分を含むことが求められます。

【博士後期課程】
国文学専攻では、日本文学あるいは日本語学に関する高度な専門的知識と高い倫理観を備え、自立した研究者として研究及びその教育の発展に寄与できる人材に対して博士の学位を授与します。博士の学位を取得するには、カリキュラム・ポリシーに沿った研究活動を行うとともに、文学研究科の決めた手続きに従った博士論文の執筆が必須です。また、博士論文は、第三者の目から見ても十分な水準にあると判断される必要があります。査読のある全国的な学会誌に掲載された基礎論文の存在を客観的評価の根拠とし、学位授与に際してはそれを中心としたひとまとまりの体系を持つものであることを重視します。

修了生の進路

- 日本大学教職員
- 日本大学明誠高等学校
- アセットガーディアン（株）
- (株) アローシステム
- 日本大学高等学校・中学校
- (学) 日本大学第一学園
- タマホーム（株）
- (株) リブ・マックス
- 日本大学櫻丘高等学校
- (学) 大垣日本大学学園
- 大和製罐（株）
- (株) ホテル京阪マネジメント

中国学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻の教育・研究対象は、古代から現代に至る中国及び中国語圏における語学・文学・芸術・思想・歴史・社会等多岐にわたります。具体的には、現代中国語文法、日中対照言語学、中国・台湾近現代文学、中国古典文学・文化史、中国思想文化、中国語圏映画史、中国近現代都市社会史、台湾近現代史などが挙げられます。

前期課程では、このように極めて広範な分野に関する専門的な知識とその運用能力の習得を図る教育を行っています。また、これらの分野を含む学術誌『中国語中国文化』を発行し、大学院生にも研究成果を発表する場を設けています。最終的には修士論文執筆を通じて、研究者・教育者としての社会的貢献をなし得る中国学の専門家を養成します。

所定の教職科目単位を修得した上で、修士の学位を取得すると、中学校教諭専修免許状（国語）及び高等学校教諭専修免許状（国語）を取得することができます。

博士後期課程

後期課程では、これら中国学に関する専門的で幅広い教養の上に立ち、自らの研究に必要な学識を一層深め、文献学的な実証研究と先進的な理論に基づく研究を行います。また、これらの分野を含む学術誌『中国語中国文化』を発行し、大学院生にも研究成果を発表する場を設けています。最終的には博士論文執筆を通じて、高い識見と広い視野を具えた中国学の専門的研究者を養成します。

近年の研究テーマの例として、中国語二音節動詞の特徴、三国志演義の成立と受容、中国現代文学思潮などが挙げられます。

主な開講科目

中国文化講義 1・2

近現代中国史に関する修士論文作成の前提となる史料分析能力の獲得を目指す。当時の新聞雑誌や手書き文書などの史料テキストを、参加者全員で輪読し、その成果に関して参加者全員で議論を行う。

中国学特殊研究 1・2

中国古典文学に関する原典資料（日本語訳等のないもの）の現代語訳と注釈を担当者が作成し、他の受講生がその誤りを訂正しながらゼミ形式で討論する。

中国語学講義 1・2

現代中国語の語彙・文法・音声などを対象とし、日本語との対照を意識しつつ、中国語研究及び日本人に対する中国語教育の理論と方法を探る。

中国文学講義 1・2

五四時期から 21 世紀の今日までの中国文学を統一的で均質なものではなく、多様で多面的な文学として考える。台湾文学、漢語文学なども参照する。

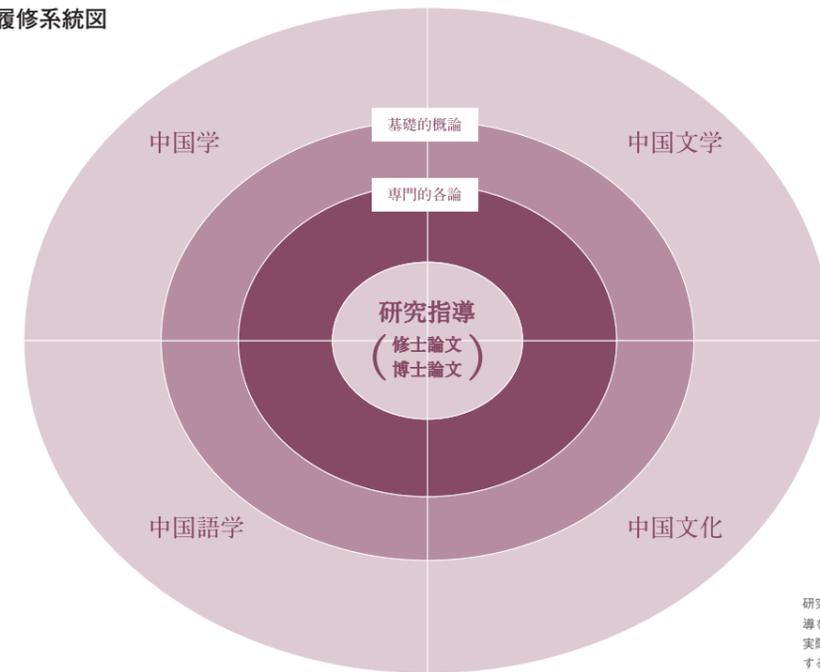
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○青木 隆 教授	中国思想文化論
○大川 謙作 教授	社会人類学、チベット現代史・文学
○神谷 まり子 教授	中国現代文学
○小浜 正子 教授	中国近現代史・中国ジェンダー史
○張 麗 群 教授	中国語学、日中対照言語学

教員名	専門領域
○平井 和之 教授	中国語学
○三澤 真美恵 教授	華語圏映画史・台湾近現代史
○渡邊 登紀 准教授	中国古典文学
山口 守 教授	中国現代文学・台湾文学・中国語圏文学

履修系統図



研究指導は、博士前期課程で修士論文、同後期課程で博士論文の指導を行います。実際に科目を選択する際は、シラバスを参照し、担当教員とも相談するようにしてください。

入学者受入方針 （アドミッション・ポリシー）

[博士前期課程]

「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文学」の各分野にわたる学術的知識と方法論を習得することによって、中国及び東アジアの文化に対する広範、かつ、深い理解を身につけ、研究・教育職を中心とした幅広い職種で社会的貢献を果たそうとする学生を受け入れます。

[博士後期課程]

「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文学」の各分野にわたる高度な学術的知識と方法論を究め、中国及び関連諸地域の文化に対する専門的な学術研究を行うことを通じて、自立した研究者・教育者として新たな学問的地平を切り開こうとする学生を受け入れます。



教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）

[博士前期課程]

「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文学」の各分野にわたり、科学的方法論に基づいた研究を行うことができるようカリキュラムを編成しています。具体的には、中国古典学・現代中国学を中心とした総合的な「中国学」、中国語学・中国語文法・中国語教育法などを含む「中国語学」、中国現代文学・古典文学を中心とする「中国文学」、東アジアの歴史学・中国思想・中国社会論・中国文化論などを含む「中国文学」、これら四分野の各科目を通じて専門的知識と先端的研究方法を、互いに関連づけ結合しつつ学んでいきます。その上で、指導教員の指導のもと、修士論文の執筆を進めます。また、各年度末に、専攻所属の全教員・全院生に向けて研究成果を発表します。

[博士後期課程]

指導教員による研究指導のもと、自らの専門分野において研究課題に取り組み、博士論文を作成していきます。その際、各年度末に専攻所属の全教員・全院生に向けて研究成果を発表するだけでなく、自立した研究者として学会等での口頭発表や、学術雑誌等への論文発表を積み重ね、積極的に学術的な対外活動を行い、博士論文執筆へとつなげていきます。

学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）

[博士前期課程]

「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文学」等の各分野にわたる理論と方法論を究め、中国及び関連諸地域に対する深い理解を身につけ、研究者あるいは教育者としての社会的貢献を果たすことができると判断した者に対して、修士（文学）の学位を授与します。修士論文の審査に当たっては、先行研究を踏まえた上で、科学的な方法論を通じて到達した、新たな知見を含む独自の研究結果が実証的に記述されているかを検証するほか、将来研究者・教育者としての社会的貢献をなす可能性を考慮します。

[博士後期課程]

「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文学」等の各分野にわたるより高度な理論と方法論を究め、中国及び関連諸地域に対する高度に専門的な理解を通して、本格的な研究者あるいは教育者として新たな学問的地平を切り開くことができると判断した者に対して、博士（文学）の学位を授与します。最終審査に当たっては、先行研究を踏まえた上で、科学的な方法論を通じて到達した、当該分野の学術的発展に大きく寄与し得る独自の研究結果が実証的に記述されているかを検証するほか、学会発表などの在学中の研究成果、公聴会におけるプレゼンテーションを含め、将来当該分野の先進的研究者として活動し、社会的貢献をなす可能性を考慮します。

修了生の進路

- 日本大学教職員
- 私立高校教員
- (株)セイノー商事
- 良品計画
- 東京都教員
- 日鐵商事(株)
- 東日本旅客鉄道(株)
- (株)エコーステーション
- 広島県教員
- 日本コカ・コーラ(株)
- 交流協会
- (株)同学社

英文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、英米文学・英語学の専門知識と研究方法を深め、言語と文化の探究をも視野に入れつつ、新たな研究領域を切り拓こうとする意欲ある学生を迎え入れます。
英米文学の授業では、シェイクスピアから現代に至る英語圏の文学作品を扱います。作品の文体や、文化的、歴史的背景についての洞察力を身につけ、描かれた思想や倫理への理解を深めることを目的とします。英語学の授業では、英語という言語の理論的、抽象的な側面を分析する分野から、具体的な事例にそって実証的な側面を研究する分野まで幅広くかつ高度な最先端の研究を行っています。例年、4講座ずつ、英文学・米文学・英語学の3分野それぞれにおいて、著名な講師による「大学院特別講義」を受講することができます。教職課程科目を修得すると、前期課程修了時に中学校教諭専修免許状(英語)・高等学校教諭専修免許状(英語)を取得することができます。

博士後期課程

博士後期課程では、英米文学・英語学のより高度な専門知識と研究方法を深め、独自の視点をもつ本格的な研究者あるいは教育者の道を進もうとする意欲ある学生を迎え入れます。
英文学科及び英文学専攻に直結する学術研究機関として「日本大学英文学会」があります。英文学専攻の学生は、年7回開催される「月例会」あるいは「年次大会」において研究成果を発表したり、学会機関誌『英文学論叢』や日本大学大学院英語英文学研究会の学術雑誌『英語英文学論叢』に論文を投稿することができます。いずれも他大学に送付され、高い評価を得ています。また、前期課程の学生と共に、専攻内で開講されている大学院の授業、及び例年、4講座ずつ、英文学・米文学・英語学の3分野それぞれにおいて、著名な講師による「大学院特別講義」を受講することができます。

主な開講科目

英米文学研究 1・2

世界文学の最高峰と評されるメルヴィルの『白鯨』という作品の舞台が「海」であることは大変重要である。作家は生命の源である海にユートピアを求めたのであり、白鯨追求を通して海そのものを描くことで魂のユートピアを探求したのだ。原書の精読を通して、『白鯨』の奥深さに触れ、その本質的かつ普遍的な意味を考察する。さあ、叙事詩の大海原に船出しよう!!

英語圏文学特殊研究 3・4

This seminar seeks to expand students' range of English language literary knowledge and reading. As the English language spreads around the globe, different cultures, societies, and places are reflected in an increasingly influential amount and variety of literature. This seminar will explore the global range of English literature, and its relationships to British and American literature, by closely reading and discussing literature in various forms, including realist and postmodern novels, film, and short stories. Another focus of this course is on writing literary analysis and criticism in English.

英語学応用研究 1・2

PC、電子テキストを使用し、Brown コーパス、BNC などの均衡コーパス、BYU などのオンラインコーパスを使用して、検索方法、データ処理の実践・実習を行いながら、英語の実態を調査・研究する。特に異なるレジスターにおける言語使用の相違、経時変化に焦点を当て、2次資料に依存せず、変化の妥当性を検証できる技量の習得を目指す。

英語学特殊研究 1・2

読みと発表の力を養成する。テンス、アスペクト、モダリティを中心に読むべき論文・著書を選定し、関連領域についての先行研究をもとにした資料(ハンドアウト)を発表者が予め用意する。その発表資料を材料に受講者で意見交換をし、当該領域の知識・理解をより深めていく。

英語学特殊研究 3・4

古英語・中英語の言語現象の観察を中心に、英語の通時的変化について学んでいく。言語変化の理論的側面にも着目し、英語の統語変化や意味変化について、具体的なテーマを決めて議論を行う。

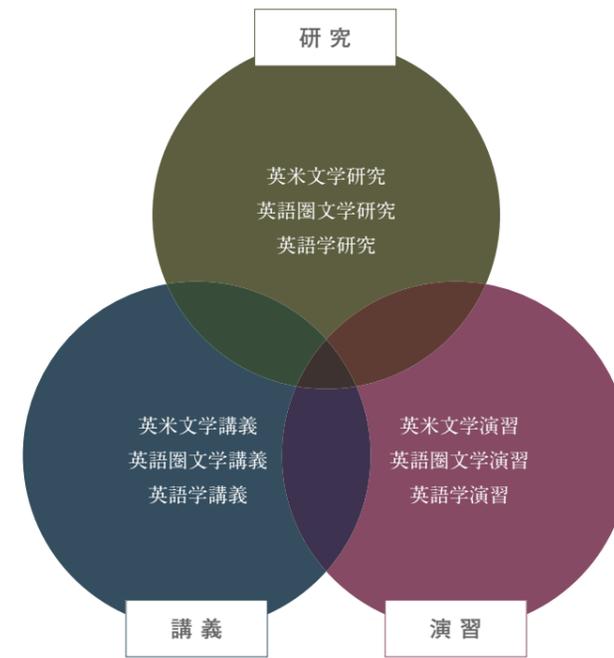
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○ 関田 朋子 教授	19世紀英文学・ジャーナリズム、文学批評理論
○ 吉良 文孝 教授	英語学、意味論、モダリティ論
○ 高橋 利明 教授	ホーソン論、メルヴィル論、19・20世紀アメリカ文学
○ 塚本 聡 教授	コーパス言語学、英語史、統語論

教員名	専門領域
○ 保坂 道雄 教授	英語史、統語論、進化言語学
○ Myles Chilton 教授	英語圏文学、英語圏文化史、文学批評理論

履修系統図



入学者受入方針

(アドミッション・ポリシー)

英文学専攻では、英文学専攻のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを達成するために、英米文学・英語学領域の基本的な知識を有し、修了後は、国内外の各研究分野で活躍しようという意欲に満ちた学生を迎え入れます。

【博士前期課程】

博士前期課程では、英米文学・英語学の専門知識と研究方法を深め、言語と文化の研究をも視野に入れつつ、新たな研究領域についての深い学識と教養を体得する意欲に満ちた学生を迎え入れます。

【博士後期課程】

博士後期課程では、英米文学・英語学のより高度な専門知識と研究方法を深め、更に深い学識と教養に基づく独自の視点を持つ本格的な研究者あるいは教育者の道を進もうとする意欲に満ちた学生を迎え入れます。

教育課程編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

英文学専攻では、英米文学・英語学のより高度な専門知識やその研究方法を探究させ、言語と文化の関わりについての多面的な考察によって新たな研究領域を切り拓くことを目指します。本専攻では、その目的のため、上記学問領域に重点を置いたカリキュラムを編成し、文学研究者も語学研究者も偏りのないバランスのとれた授業を履修します。そして、指導教員による専門指導のもとに積極的な研究活動を行うことにより、論理的分析能力、自己表現能力を修得させると同時に、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の強化を図ります。

博士前期課程では、各専門分野について多彩で充実した選択授業科目を設置しています。研究に必要な専門知識の修得に加え、広い視野から学問をとらえ、それらを自らの研究に活かすことを通じて、自立的で柔軟な思考力の涵養を目指します。また、2年次には修士論文の中間発表会が開催され、活発な議論が行われます。さらに院生は、その修士論文を指導教授の査読を経て、本専攻発行の機関誌『英語英文学論叢』に掲載し、掲載される機会が与えられています。

博士後期課程では、指導教員による綿密な研究指導のもとに専門分野における研究課題に取り組み、博士学位論文の作成を目指します。自立した研究者の育成を目指すため、日本大学英文学会の月例会での口頭発表の機会もあり、そこでの極めて活発な議論は論文完成への大きな礎となります。また、院生は、論文を日本大学英文学会機関誌『英文学論叢』に掲載し、掲載される機会が与えられています。さらには、学外の研究団体での口頭発表・論文投稿も積極的に奨励しています。

学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

英文学専攻では、英米文学・英語学研究を通じて社会と人間との関係性を追究し、言語の本質の探究を通して、高度な専門性と国際性を有する社会貢献のできる、教養豊かな人材の育成を目指します。

【博士前期課程】

英米文学・英語学各分野についての、より高度な総合的研究を通じて、研究課題を自ら設定し、英米及び英語圏文化のエッセンスに触れ、その言語・文化構造の深層を考究することによって、それぞれの研究領域についての深い学識と教養を体得した人材に学位を授与します。

【博士後期課程】

博士前期課程で培った研究姿勢と研究成果を踏まえ、英米文学・英語学各分野における学識と教養を深め、短期・中期的な研究計画に基づき、総合的、専門的、学際的な研究を遂行する中で、学位論文を完成させることができ、さらに今後、研究・教育職において大いに活躍が期待される人材に学位を授与します。



修了生の進路

- 日本大学豊山女子中学校・高等学校
- 千葉日本大学第一高等学校・中学校
- (学) 松山大学
- 埼玉県春日部市役所
- 日本大学櫻丘高等学校
- 国士舘高等学校
- (学) 横浜商科大学
- ワタベウェディング (株)
- 日本大学習志野高等学校
- 第一幼児教育専門学校
- 茨城県教育委員会

ドイツ文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、「ドイツ文学・語学・文化」を研究の柱として、中世から現代に至る文学研究、広い言語学的知見からのドイツ語研究、さらに美術、メディア学等に関する文化学的研究まで、幅広い講座の開設により総合的な基盤に立つ研究者の育成に努めると共に、ドイツ語教育者としての能力養成のためにドイツ語教授法の講座も開設されており、高いドイツ語力の育成と幅広く柔軟な判断力を備えた社会人、大学ドイツ語教員、独創的な研究者を輩出することを目指しています。また、ヨハネス・グーテンベルク大学（マインツ）やベルリン自由大学（ベルリン）などへの留学による成果を研究生活に活かす機会も設けられています。大学院生によって運営・発行される学術誌『報告』では、研究成果が論文の形で毎年発表されています。課程修了後は後期課程への進学者や教員の他、旅行業、特許翻訳業などの一般企業への就職者も多く輩出しています。

博士後期課程

博士後期課程では、前期課程で養われた研究のための基礎能力とドイツ語専門知識を更に発展させ、ドイツ文学、語学、文化、及びドイツ語教授法それぞれの領域を専門とする教員の指導のもとに、各研究領域やテーマについて研究を深化させながら、より高度な研究能力と、奥行きのある学識を身につけ、自立した研究者、教育者となることを目指します。毎年数回にわたり国内他大学の教授を招き、幅広い領域に関する特別講義が実施され、ドイツ、オーストリア、スイスなどの著名な研究者や作家を招聘しての講義や朗読会なども催され、ドイツ語圏の最新の情報に触れることができます。また、諸関連学会・学術誌への投稿を通じて、公に認められる業績としての論文発表が可能です。課程修了後の進路には、文理学部や他大学の研究所研究員、大学ドイツ語教員などがあり、日本のドイツ研究を担う人材を多く輩出しています。

主な開講科目

ドイツ文学演習

中世から啓蒙主義、疾風怒濤、古典主義、ロマン派、自然主義、表現主義、第二次大戦後等々、時代全般にわたり学生の要望に応えられるような態勢を整えている。

ドイツ文化研究

文化領域としては、中世の騎士精神から音楽、映画、現代演劇まで多彩な授業を用意、また思想領域では、ニーチェ、ベンヤミンなどをとりわけ現代の社会文化状況との関連で丹念に考察している。

ドイツ語学演習

語学的・実務的な知識・技術や経験だけではなく、インタラクティブな方式で専門的研究活動の基本的な考え方や総合的な展望を持てるような研究者の基礎を養う。

ドイツ語教授法演習

ドイツ語教授法の歴史の変遷、日本の現状と問題点、学習目標と教材、教材加工、教場での留意点などを学び、ドイツ文学科1年生クラスを対象に模擬授業を行う。

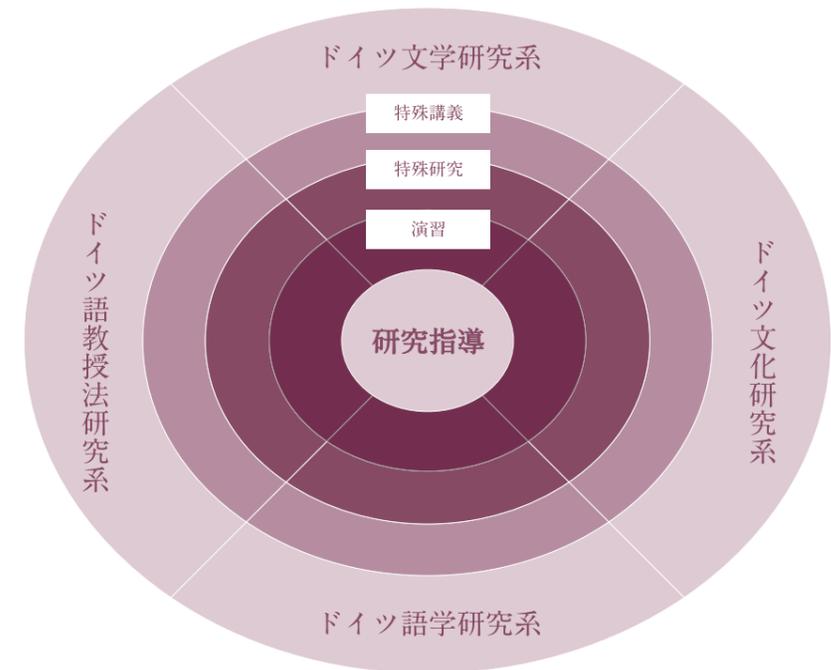
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○板倉 歌 教授	ドイツ語学、日独対照言語学、語用論
○初見 基 教授	近現代ドイツ文学、現代ドイツ思想
○浜野 明大 教授	中世ドイツ文学
○保阪 靖人 教授	現代ドイツ語学
○SCHMIDT, Maria Gabriela 教授	言語学、言語史、言語文化

教員名	専門領域
○SCHWARZ Thomas 教授	現代ドイツ文学、文化学
安達 信明 教授	言語学、音楽学
関口 なほ子 教授	19・20世紀ドイツ文学
森田 悟 教授	ドイツ近代文学、E.T.A. ホフマン

履修系統図



入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

学部あるいは博士前期課程在学中に修得した内容を土台にして、更に専門性の高い研究を目指す熱心で意欲的な人を求めています。

[博士前期課程]

学部で学んだ内容を更に専門的に追求する意欲を持つ人を歓迎します。学部で培った基礎学力に更に肉付けし、確かな語学力に基づき専門文献に積極的に取り組み、自らの考えを自分のことばで表現し、不断の努力を怠らない知識欲旺盛な学生を求めています。

[博士後期課程]

前期課程を修了し、ドイツに関わる各専門分野について更に専門性の高い踏み込んだ研究を志す意欲的な人材を歓迎します。明確な目的意識と強い探究心を持ち、先行研究と取り組み批判的な思考を展開し、将来研究者、教育者、教養人として社会への貢献を目指すような人を求めています。

教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

ドイツ文学専攻では、ドイツ語能力を基盤に、ドイツ語学・文学・文化及びドイツ語教育の各分野において、広く深い知見を持ち、その専門的な学識と経験をもって社会に貢献できる優れた人材を育成することを目指しています。多様な開講科目の他に学外の各専門分野の研究者を招いての特別講義も用意され、留学も含め研究のための可能な限りの可能性にも配慮し、学び手の能力を最大限に発揮してもらえるよう配慮しています。

[博士前期課程]

ドイツに関する語学・文学・文化・教育などの各専門分野について、多様な演習・講義・研究科目が開設されており、同時に分野横断的な学習を行うことも可能であり、他方で修士論文執筆を念頭に置いた専門的方向性の高い指導を受けることも可能です。ドイツの提携大学との交換留学で現地資料に囲まれた環境に身を置いて学ぶ機会も用意されており、教職に関して更にワンランクアップの資格の取得も可能です。

[博士後期課程]

専門分野の指導教員による緻密な指導計画に基づき、より専門性の高い研究課題について踏み込んだ研究を行えるように指導します。博士論文執筆を念頭に置いた研究に取り組み、毎年行われる学術研究発表会で発表をすることによって多様な視点からの意見を受けることも可能です。また、交換留学や学外の専門家による大学院特別講義の機会も用意されており、様々な角度から在学生の研究の指導並びに支援を行います。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

ドイツ文学専攻では、科学の真理追求を通して、高度な専門性を有し、たゆまぬ批判的な思考を積むことで、人類の幸福と発展に寄与できる人材の育成を目指します。

[博士前期課程]

ドイツ語による読解力・ドイツ語の運用能力を身に付けることによって、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパの背景を理解し、学問上の基本的な知識を基盤として専門研究を進められるようなレベルの学生に修了を認定します。課程で得た語学能力を活かすことによって、専門的職業を担うために必要となる知識及び能力を身につけていることを示すことができる学生に修了を認定します。専門分野での問題解決能力はもちろんのこと、国際的な視点を持ち、ドイツ語を通じて社会に貢献できる能力を獲得している学生に修了を認定します。

[博士後期課程]

研究者として専門分野における問題解決のための基礎的な能力を持ち、問題解決のためのアプローチ並びにその解決能力を論文並びに口頭発表の形で示すことができることを基準とします。この基準に基づいて、博士論文執筆を行います。ドイツ語で議論し、ドイツ語で論文を執筆することができる能力を身に付けることも課程修了の基準となります。また、現地においても十分に語学能力を駆使できるレベルに達していることが課程修了の基準です。

修了生の進路

- 東京都市大学
- 日本大学豊山中学校・高等学校
- (株) エイチ・アイ・エス
- 大黒工業(株)
- 国士舘大学
- (学) 佐野日本大学学園
- エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)
- 日本通運(株)
- ゾンデルホフ&アインゼル法律特許事務所
- 東京学館高等学校
- セクスイエクステリア(株)
- 図書館スタッフ(株)

社会学専攻（社会学コース）

社会学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、社会学理論と方法論への理解を深め、現代の社会現象を分析・解明するために、社会学を柱に幅広い視野と専門性の高い知識等を身につけた人材を養成することに重点を置いています。理論実証・応用の各研究領域に対応した科目が設置されており、担当教員による丁寧な研究指導とコミュニケーションを通じて、自らの研究をより深めていくことができる環境が整っています。取得可能な資格としては、高度な調査能力を身につけたプロに与えられる専門社会調査士があります。

博士後期課程

後期課程では、社会学理論と方法論に立脚した高度な研究能力及び豊かな学識を養うことで、研究者として自立して研究活動を行い、現代社会の究明に資する本格的な研究者あるいは教育者になる人材を養成することに重点を置いています。指導教員による個別指導と研究会の開催を通じた大学院担当教員による集団指導体制のもと、博士論文執筆に専念できる環境が整っています。

主な開講科目

文化社会学理論応用演習

社会学理論を用いて現在生じている社会現象を分析し、解明する能力を高めるとともに、理論研究をふまえて学生各自のテーマにそれらの理論を適用して、具体的な問題を考察する。

社会問題論応用基礎研究

社会病理学の概念や理論枠組・歴史・研究動向を学び、現代日本における具体的な社会病理現象を社会的に分析・考察する力をつける。社会病理現象の解明に必要な調査・研究の方法論も養成する。

家族社会学実証基礎研究

日本における家族社会学の古典的な文献、及び、国際的な家族社会学研究の中から特に重要と思われる文献を講読・検討することを通じて、現代日本の社会構造の理解にとって家族社会学が有する意義について講述する。

都市・地域社会調査演習

「専門社会調査士」資格取得のための必修科目に位置づけられている科目であり、各自の研究計画を固め、社会調査を実際に企画・設計して実査につなげていくことを目標とする。

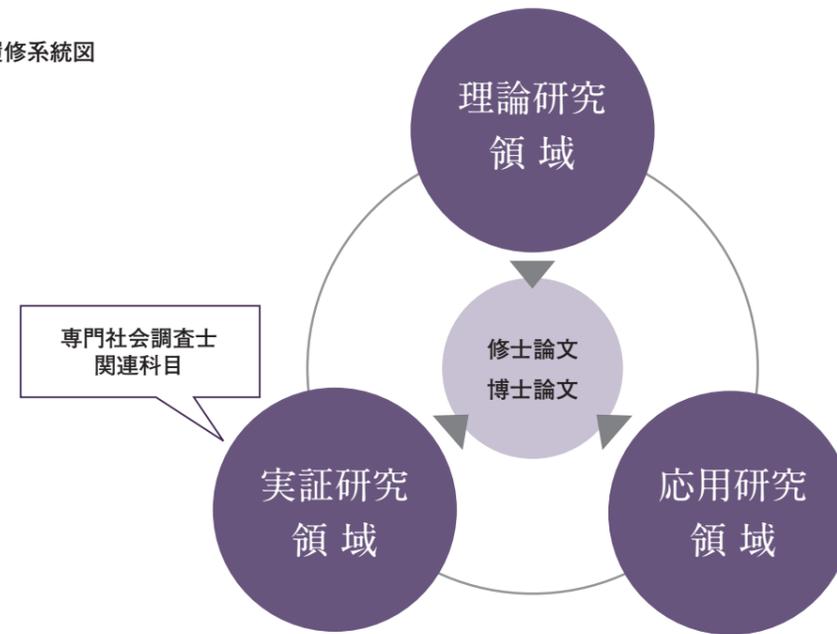
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○石岡 丈昇 教授	比較社会学、文化人類学、身体文化論
○大飼 裕一 教授	社会学史、社会学理論、知識社会学
○久保田 裕之 教授	家族社会学、福祉社会学、政治哲学
○後藤 範章 教授	都市社会学、ビジュアル社会学、社会調査論
○菅野 剛 教授	人間科学
○立道 信吾 教授	産業社会学、資本主義の多様性論、社会調査法
○仲川 秀樹 教授	マス・コミュニケーション論、集合行動論、メディア文化論
○中瀬 剛丸 教授	メディア社会学論、社会意識論、政治社会学

教員名	専門領域
○中村 英代 教授	臨床社会学、社会病理学、ジェンダー論
○中森 広道 教授	災害社会学、社会情報論、災害情報論
松岡 雅裕 教授	社会システム論、社会学説史、社会思想
○松橋 達矢 教授	歴史社会学、都市研究、地域社会学論
○山北 輝裕 教授	社会史、質的調査、社会問題論
○好井 裕明 教授	社会問題のエスノメソドロジー、日常的差別論、映画社会学
菊池 真弓 教授	ライフコース論、高齢者福祉、コミュニティ復興論

履修系統図



入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、社会の複雑化とともに高まりゆく社会的要請に対して、社会学の領域における高度な学識と問題解決能力を有することで、学問の進展や、社会に対する積極的貢献に寄与する専門的職業人の育成を教育目的とします。本コースでは、この目的のもと、社会学の学問的成果を積極的、かつ、創造的に社会へ還元する意欲と適性を有する熟意ある学生を受け入れます。

【博士前期課程】

日本大学文理学部社会学科が1920年に創設されて以来、長年にわたる教育・研究活動の中で築き上げてきた「理論と実証と実践（応用）」のいずれをも重視する学風」を土台に据えつつ、社会学の理論的基礎に支えられた専門的知識と社会調査リテラシーをもって、高度に複数で多様化した社会現象を解明して社会に貢献しうる専門的職業人の育成を目指します。そのため、知的好奇心が旺盛で様々な社会問題に興味・関心を持ち、問題解決に努力を惜しまないチャレンジ精神が豊かな人を受け入れます。

【博士後期課程】

より高度な教育・研究指導を受けて、様々な社会問題を的確に分析し考察できる研究能力を備え、国内外の舞台で活躍できる研究者又は高度な専門的職業人を育成することを目指します。そのため、既成の枠組みにとらわれることのない柔軟な思考力と広い視野を有し、自ら研究計画を立て、課題に向かって邁進できる明確な目的意識と強い研究意欲を持った人を受け入れます。

教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、社会学の学問分野を中心に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを備え、社会が直面する新たな問題に取り組むことができる有能な人材の養成を目指しています。

【博士前期課程】

アドミッション・ポリシーに掲げた人材を育成するために、「理論研究領域」「実証研究領域」「応用研究領域」の3領域からなるカリキュラムを編成しています。「理論研究領域」では、研究の堅固な土台を構築するために、社会学の理論・学説史などに関する講義や演習科目を配置します。「実証研究領域」では、家族や都市・地域や社会階層などの実証的研究に関する講義や演習科目を配置し、「専門社会調査士」資格の取得にも対応します。「応用研究領域」では、メディア社会、災害、社会病理、マスコミ、産業労働、などに関わる講義と演習科目を配置し、多様化する大学院生の研究テーマに応えます。また、これらに加えて、修士論文作成のために、複数の研究指導教員が中心となって研究指導にあたります。

【博士後期課程】

研究指導教員の研究指導を受けながら、博士論文の作成を進めます。博士論文を完成させるためには、学会発表や学術雑誌への論文掲載などを積み重ねていくことが不可欠であり、そのために、研究指導教員以外の他の教員からも幅広い研究上のアドバイスを受け、独創的で先進的な研究の展開を図っていきます。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、研究指導教員の指導のもとで行った研究成果が、緻密、かつ、正確に先行研究を踏まえているか、現代社会が提起する社会学的諸問題に対して問題解決力を示しているか、そこに独創的、かつ、卓越した観点と見識が備わっているかを判断基準として、以下の学位論文の審査を行います。

【博士前期課程】

学位授与に関わる修士論文の審査と最終試験に関しては、社会学の理論と方法に関わる専門的な知識、研究を遂行する上での基礎的な諸能力（語学力を含む）、修士論文の独創性と社会への貢献度が問われます。特に社会学コースのアドミッション・ポリシーの土台ともいえる「理論と実証と実践（応用）」のいずれをも重視する学風」にのっとり、①社会学の理論・学説と方法を深く学び身に付け、②社会的な思考力や想像力を培い、③現実社会を的確に調査・分析し考察する力を高め、④企画立案と課題解決のための力を養成するという教育研究上の目的に準拠しつつ、その成果が厳正に審査されます。在学期間を通じて、以上のような教育研究上の目的を達成し、将来的に専門的職業を担うことができる能力を有していることが課程修了の基準です。

【博士後期課程】

学位授与に関わる博士論文の審査と最終試験に関しては、文学研究科の定める期間内に開催される公聴会において発表を行い、社会学の理論と方法に関わるより高度で専門的な知識を体系的に習得しているかどうか、研究を遂行する上でのより高度な専門的諸能力（語学力を含む）を身に付けているかどうか、博士論文の独創性・説得性と社会への貢献度がより高い水準で認められるかどうか、積み重ねた研究業績が質・量の両面で評価できるかどうか、研究者又は高度な専門的職業人として資質と倫理性を兼ね備えているかどうか、などが問われます。在学期間を通じて、積極的に学会等へ研究成果を発表することは学位取得の前提であり、かつ、高度な専門性を身に付け、自ら課題を見つけ解決できる自立した研究者としての能力を有していることが課程修了の基準です。

修了生の進路

- 青山学院大学
- 札幌学院大学
- 日本大学
- 星槎道都大学
- (独)労働政策研究・研修機構
- 日本放送協会 (NHK)
- 医療創生大学
- 静岡福祉大学
- 法政大学
- 東北女子大学
- (財)アジア人口・開発協会
- 高等学校教育
- 大妻女子大学
- 帝京大学
- 文京学院大学
- 他
- (財)長寿社会開発センター
- 他

社会学専攻（社会福祉学コース）

夜間開講を中心にカリキュラムを構成

社会福祉学コースの概要

博士前期課程

社会福祉のニーズが多様化・深化している現代社会では、さまざまな社会（福祉）問題を分析し解決できる高度な知識と技術を有した人材が求められている。社会福祉学コースでは、国や地方公共団体に活躍する公務員をはじめ、民間福祉施設やNPO・NGO、学校、病院などのさまざまな機関において、高い専門性と能力と技術を十分に発揮し、それらの機関の中核的存在として貢献できる人材を養成する。

主な開講科目

社会福祉政策論基礎研究

「なぜこういう仕組みなんだろう」、「もっと上手いやり方があるだろう」、「なぜこんなことができないんだろう」—現行制度を学ぶ中で、こうした素朴でありながら根源的な疑問がわいてくることがあると思います。社会福祉政策は、急速に変化する社会情勢を捉え、政策課題を設定し、錯綜するさまざまな考えや利害の調整のプロセスを経て形になります。必ずしも「理屈」だけでは片付かないさまざまな制約の中で、「今の姿」にたどり着いているのです。このような一連の流れを調査研究することによって、現行制度をより深く理解し、多角的に捉えることによって、政策研究の基礎を修得していきます。

医療ソーシャルワーク基礎研究

ソーシャルワークとは何かという根源的な問いに向き合いながら、学術的にも実践的にも必要とされている課題をピックアップし、臨床に根ざしたソーシャルワーク研究を行う。とりわけ、医療機関におけるソーシャルワークに着目し、ソーシャルワーカーがどのようなことに価値を置いてどのような実践をしているのか、また、どのような倫理的ジレンマに直面し、どのように折り合いをつけているのかなどについて考究する。講義で取り上げるテーマは、緩和ケア、グリーフケア、意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニングなどを考えているが、受講生が必要を実感している実践課題に学術的に取り組んでいく。

児童福祉基礎研究

本講では、子ども期にあたる「人間」がどのような存在であるかを問いながら、人間の一生を生命の誕生から死にいたるまでと捉え、子どもやその家族の福祉課題に焦点をあてる。子どもが生きていくうえで遭遇する生活の脆弱性に着目し、その脆弱性ゆえに受ける人としての社会的排除の実態を事例に基づいて理解する。そしてその子どもが人としての生活を取り戻し、社会に包摂されていくにはどのような解決策や方向性が考えられるかを省察する。より質の高い実践力をめざし、実践の検討から実践の研究へとシフトさせるために必要な理論を探索、深い学識に基づいた実践者の育成をはかる。

高齢者福祉応用研究

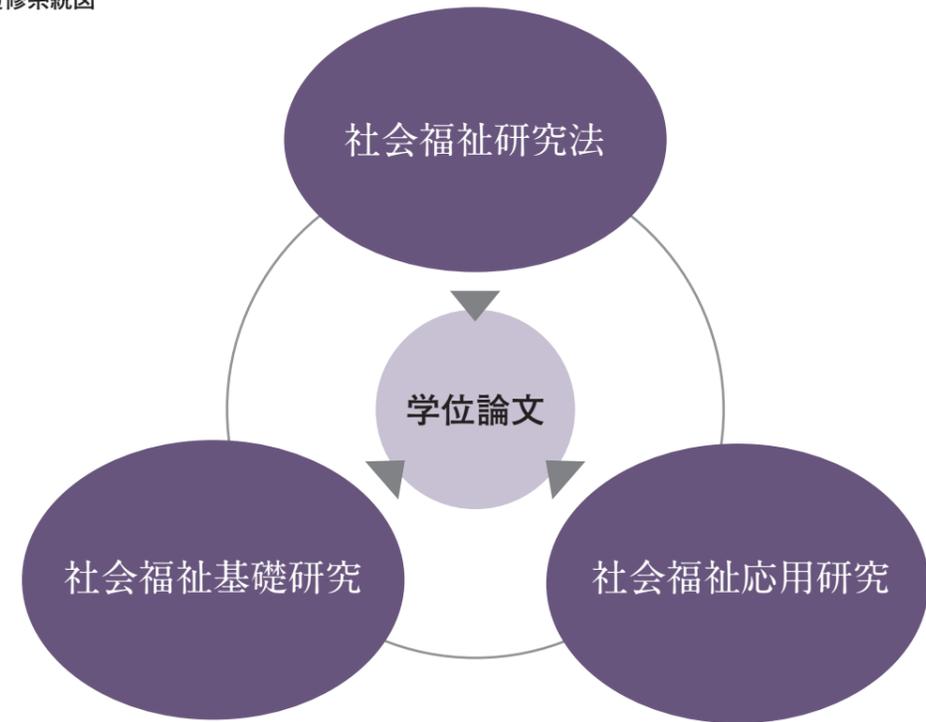
高齢者福祉、権利擁護・虐待防止についての基礎研究を行う。8050問題、老後破産、老後漂流、孤独死・孤立死、いわゆる「ごみ屋敷問題」等のセルフネグレクト、介護殺人等、高齢者の人権と福祉は取り組むべき喫緊の課題となっている。また虐待防止のための方法論の研究開発や人材育成が急務である。高齢者の福祉課題や虐待課題等を科学的に把握、分析した上で、法制度の検討や、虐待対応ソーシャルワークモデルやプロフェSSIONALプログラム等の支援についても研究を深めながら、専門性、実践性の高い学問、研究を追究していきたい。

教員紹介（科目担当者含む）

教員名	専門領域
上之園 佳子 教授	介護福祉法制度史、地域ケア政策、保健福祉研究
太田 由加里 教授	児童福祉、スクールソーシャルワーク
金子 絵里乃 教授	ソーシャルワーク、臨床死生学
鴨澤 小織 准教授	社会政策、質的研究法、ジェンダー論
川村 宣輝 教授	障害者福祉、職業リハビリテーション学

教員名	専門領域
久保田 純 助教	ソーシャルワーク実践理論、公的扶助
白川 泰之 教授	社会保障法、居住支援政策
諏訪 徹 教授	地域福祉、福祉政策、福祉マネジメント
山田 祐子 教授	高齢者福祉、虐待対応ソーシャルワーク
吉田 仁美 准教授	障害者福祉、障害者ジェンダー統計

履修系統図



社会人のための大学院 夜間開講でサポート！ 専門的キャリアアップをめざし、さらなる一步を！

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会の複雑化とともに高まりゆく社会的要請に対して、社会福祉学の領域における高度な学識と問題解決能力を有することで、学問の進展や、社会に対する積極的貢献に寄与しうる専門的職業人の育成を教育目的とします。本専攻では、この目的のもと、社会福祉学の学問的成果を積極的、かつ、創造的に社会へ還元する意欲と適性を有する熱意ある学生を受け入れます。

[博士前期課程]
急速な社会の進展に伴い高度で複雑で多様化した社会問題や社会福祉問題に対応するため、確固たる理論的基礎に支えられながらも柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、かつ、高度な専門的知識とバランスのとれた社会感覚を備え、現代社会の解決すべき諸問題に対して、先進的な社会福祉学の理論と援助技術（ソーシャルワーク）を駆使して、問題解決に向けて積極・果敢に対応できる高度な専門職業人を育成することを目的としています。

教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会福祉学の学問分野を中心に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを備え、社会が直面する新たな問題に取り組むことができる有能な人材の養成を目指しています。

[博士前期課程]
「社会福祉研究法」「社会福祉基礎研究」「社会福祉応用研究」の3領域からなるカリキュラムを編成し、先進的な社会福祉学の理論と方法を駆使して、問題解決に向けて積極・果敢に対応できる高度な専門職業人の育成を目指します。夜間開講を中心にカリキュラムが構成され、社会人入学生も専門的实践を活かして高度な研究を行うことができます。

社会福祉学コースでの学び

社会学専攻社会福祉学コースカリキュラムは、社会福祉の領域に関する基礎的な課題（社会的課題等）に基づき大学院での研究方法に関する「社会福祉研究法」に始まり、研究領域の制度や社会的課題等にアプローチするに当たっての基礎的な課題等に関する研究を進める「社会福祉基礎研究」、専門領域に関してより高度な研究をするための「社会福祉応用研究」なるカリキュラム構成をし、実践的かつ理論的な研究を行うことを目的とし、それぞれの研究課題にそって専門的実践的な研究

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学専攻社会福祉学コースでは、研究指導教員の指導のもとで行った研究成果が、緻密、かつ、正確に先行研究を踏まえているか、現代社会が提起する社会福祉学的諸問題に対して問題解決力を示しているか、そこに独創的、かつ、卓越した観点と見識が備わっているかを判断基準として、以下の学位論文の審査を行います。

[博士前期課程]
社会福祉の様々な政策及び技術的方法を学び、高度な学識と高い専門的知識を持ち、現代社会が抱える福祉問題への確かな視点と分析能力、政策立案能力を有し、社会の解決すべき諸問題（福祉問題）に対してその専門性を発揮し、社会に貢献できる人材の育成を行います。

を段階的に積み上げることができるカリキュラムを構成としている。社会福祉学コースの特徴である社会人入学生による専門的実践からの課題等を踏まえ、実践課題の分析から理論構築する研究を行うことが出来るように、夜間開講を中心にカリキュラムを構成し社会人入学生が専門的実践を活かして高度な研究を行うことで専門性の高い社会福祉専門職を目指すカリキュラム構成にしている。

教育学専攻（教育学コース）

教育学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、教育学及び体育学の専門的な知識・技能の修得、実践的な知識と深い洞察力の修得を目指す学生を求めており、研究者や教育者などとして社会的貢献を果たそうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。

また、教育学及び体育学の学問分野を柱に、基礎的研究能力を有する研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識をもった人材を養成します。

中学校教諭専修免許状（社会）と高等学校教諭専修免許状（公民）の取得が可能です。

博士後期課程

後期課程では、教育学及び体育学の高度な知識・技能・洞察力の修得を目指す学生を求めており、本格的な研究者あるいは教育者などとしての専門職に就こうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。

専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成しています。

主な開講科目

教育哲学研究

教育哲学・教育思想に関する文献を講読し、議論を重ねることによって、大学院レベルの読解能力や思考力、表現力を身につける。

日本教育史特論

日本教育史の研究状況について、近代の分野を中心にして、その到達点と今後の課題・展望を論じ、研究テーマ設定に必要な基礎的能力の素養を身につける。

学校論研究

教育に関する諸事実を時系列的にたどり、最新の研究動向も踏まえながら、教育の本質に歴史的に迫る。本授業では、主として、日米の学力向上政策を比較検証する。

教育社会学研究

学術文献の講読・討議を通して、教育社会学の基礎的研究を行う。さまざまなトピックの最新の研究動向を探るとともに、研究方法や論文執筆の方法についても理解を深める。

教育行政学特論

戦後から現代に至るまでの教育政策を実証的に分析し、望ましい制度・政策・行政の在り方について検討を行う。計量的手法や質的調査の手法を、論文や文献の解題から学び、実際のケースに適合させた分析を行う。

教育内容論研究

人間の学びに関わるテーマおよび領域を広く対象とする。とりわけ教育目標、教育内容、教育方法、教育評価の具体相とそれらに働くダイナミズムについて、国際的視野で考究する。

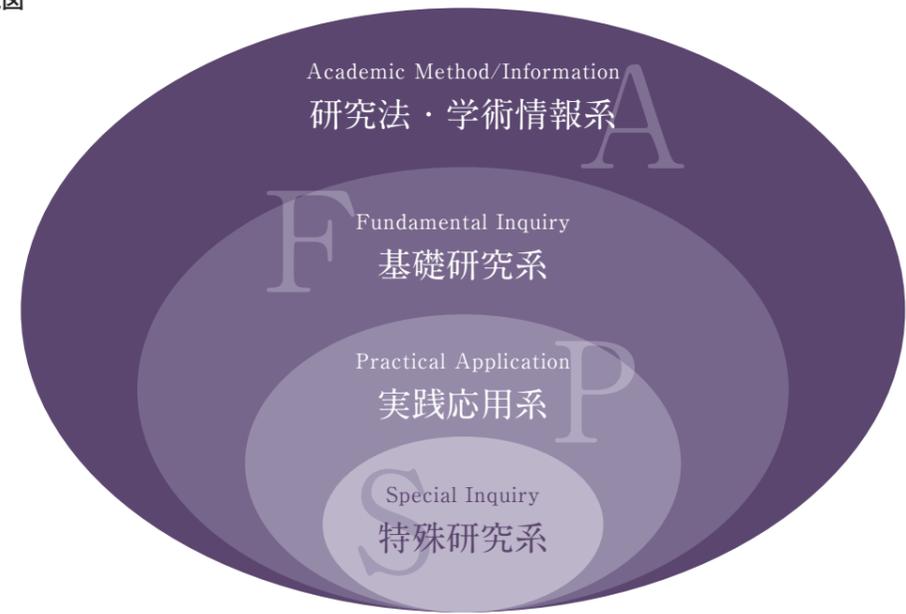
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○小野 雅章 教授	日本教育史、教育政策史、教育実態史
○下司 晶 教授	教育哲学、教育思想史、教育人間学
○佐藤 晴雄 教授	生涯学習論、社会教育論、教育経営学
○末雷 芳 教授	教育行政学、教育財政学、教育社会学

教員名	専門領域
○広田 照幸 教授	教育社会学、教育史、社会史
○望月 由起 教授	教育臨床社会学、キャリア教育、キャリア形成
間篠 剛留 准教授	高等教育論、比較教育論、教育思想史

履修系統図



入学者受入方針 （アドミッション・ポリシー）

教育学専攻は、その学位授与方針に基づき、教育学・体育学及び関連分野の専門的な知識・技能を修得することを通じて実践的な知識と深い洞察力を備えようとする学生を求めており、研究者や教育者として広く社会に貢献できる意欲と熱意のある学生を受け入れます。

具体的には、次のような学生の入学を希望します。

【博士前期課程】

- ・知的探究に自主的に取り組み、創造的な発想や思考を追究する学生
- ・真理を追究する強い情熱と忍耐力を持ち、ねばり強く研究を推進していく学生
- ・十分な基礎学力と教養を持ち、新しい知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・教育学あるいは体育学の特定の専門知識を有し、高度、かつ、専門的な知識を活かした職業人、加えて社会への貢献を目指す学生

【博士後期課程】

- ・教育学あるいは体育学の特定の課題に強い関心を持ち、その知的な探究に意欲を持つ学生
- ・教育学あるいは体育学における理論的又は実証的研究に自主的に取り組み、創造的な発想・思考を追究する学生
- ・教育学あるいは体育学における十分な知識を持ち、また、隣接領域とともに知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・教育学あるいは体育学の特定の専門知識を有し、高度、かつ、専門的な研究職に従事することを旨とする学生

教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）

教育学専攻では、主として教育学を学ぶ教育学コースと主として体育学を学ぶ体育学コースの二つの分野を置いており、学生は、入学時にそれぞれ主とする分野を決めることになります。

本専攻は、教育学・体育学に関する多様な知識や理論、課題や手法などに関する幅広い科目を開講し、教育あるいは体育の特定の課題を深く掘り下げ、新たな知見を導き出すための能力が身につくような教育課程の編成を行い、多様化する知識基盤型社会で求められる、高度な専門性、幅広い教養並びに高い倫理観を形成できるようにしています。

【博士前期課程】では、1年次から指導教員を決め、教育学・体育学研究についての基礎知識の修得及び修士論文執筆のための課題設定の方法についての個別指導を行うとともに、授業科目の修得により、教育学及び体育学の体系的な知識を得ることができるよう配慮しています。

【博士後期課程】では、一定水準の研究能力を基盤にし、特定の指導教員のもとで、自立した研究者になるための研究指導を行います。その力点は、学生が独自に課題の設定からその解決ができるようになることです。指導教員を中心に論文作成に関するアドバイスはもとより、研究発表のためのプレゼンテーション能力の強化にも努め、学会発表や学会誌論文作成の手助けを行い、博士論文完成へと指導します。

学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）

教育学専攻では、教育学及び体育学の専門的な知識・技能と研究能力を基盤にし、現代社会が提起する教育の諸問題に取り組むための広い視野を備え、専門的知識と論理的な考察力をもって広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

【博士前期課程】

在学期間を通じて、教育学・体育学の専門知識を修得し、論理的思考能力と問題解決能力を身につけ、自己の身につけた知識と能力を実社会に還元しようとする姿勢をもてることが、課程修了の基準です。そのために、在籍期間中に教育学専攻が指定した科目を必要単位以上に修得した上で、指導教員のもとで専門分野の研究を行い、修士論文を執筆することが求められます。

【博士後期課程】

在学期間を通じて、教育学・体育学の研究者として自立するため、非常に多岐にわたり、かつ、複雑な教育学や体育学に関する高度な専門知識を身につけ、独力で新たな諸課題をみつけ、解決を図るようになることが修了の条件です。その上で、指導教員のもとで所定在学期間研究に従事し、専門学会などにより一定の評価を受けた上で博士論文を執筆することが求められます。

修了生の進路

- 青森大学
- 東京大学
- 大阪府教員
- 調布市立図書館
- 大阪教育大学
- 日本大学
- 千葉県教員
- (財)日本高等教育評価機構
- 金沢大学
- 兵庫教育大学
- 東京都教員
- (株)富士通 他多数

教育学専攻（体育学コース）

体育学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、教育学及び体育学の学問分野を柱に、基礎的研究能力を有する研究者の養成を旨とする。高度な専門知識をもった人材を養成します。教育学及び体育学の専門的な知識・技能の修得、実践的な知識と深い洞察力の修得を目指す学生を求めており、研究者や教育者などで社会的貢献を果たそうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。中学校教諭専修免許状（保健体育）と高等学校教諭専修免許状（保健体育）の取得が可能です。

博士後期課程

後期課程では、専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成します。教育学及び体育学の高度な知識・技能・洞察力の修得を目指す学生を求めており、本格的な研究者あるいは教育者などの専門職に就こうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。

主な開講科目

スポーツ栄養学特論

スポーツ栄養サポートの現場で科学的根拠に基づいたマネジメントの方法を知る。また、アスリートの栄養摂取について国際的な研究成果を調べ、スポーツ現場への情報提供を担う人材としてスキルを習得する。

スポーツ教育学特論

スポーツ教育実践を「生きられる生活世界」として内在的に捉え、そこでの出来事を「意味論理」として記述・構成するための考察視座を獲得することをねらいとする。

バイオメカニクス特論

身体運動の力学的理解に必要な基礎知識を学ぶとともに、身体運動をバイオメカニクス的に検討することの実践への意義、近年のバイオメカニクスの研究の動向などについて学ぶ。

スポーツ社会学特論

わが国のスポーツの歴史社会学研究を手掛かりにしながら、現代日本におけるスポーツの諸課題を鮮明にする。また関連する学術研究領域の研究動向にも積極的に情報を収集して、スポーツ社会学における学術研究の方向性を探求する。

メンタルマネジメント特論

実際のスポーツ競技選手に既存のメンタルトレーニングを実践し、その効果を測定・評価・発表する過程を探求する。

スポーツ生理学特論

基礎医学としての生理学的知識を身につけ、感覚・運動を中心とした大脳皮質の入出力メカニズムや、その応用について学ぶとともに、トレーニングによる大脳皮質の変化について探求する。

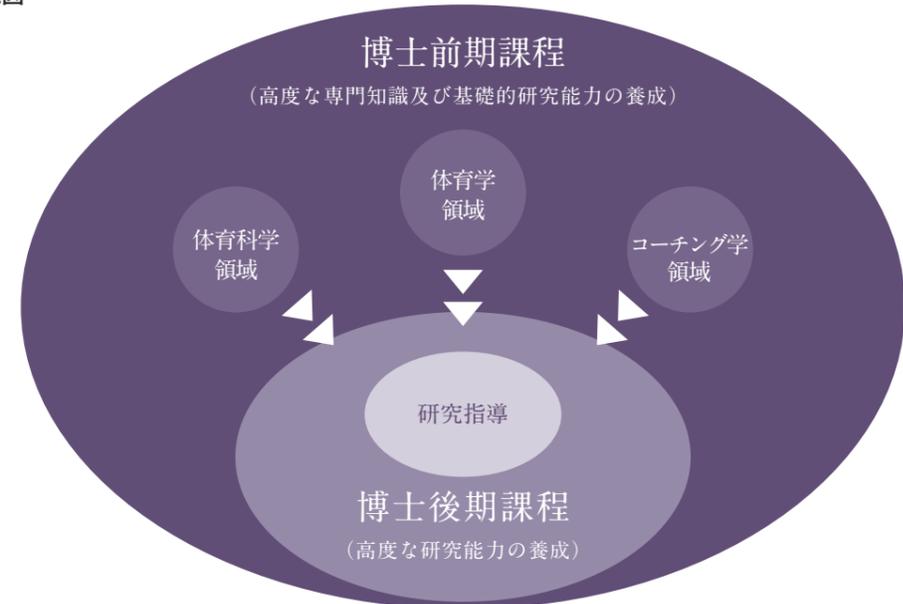
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○青山 清英 教授	スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクス
○鈴木 理 教授	体育科教育学、スポーツ教育学、体育・スポーツ哲学
○高橋 正則 教授	測定評価学、コーチング学、スポーツ方法学（テニス）
○長澤 純一 教授	運動生理・生化学、応用健康科学、環境生理学
○水落 文夫 教授	スポーツ心理学、スポーツメンタルマネジメント学、スポーツ情報処理論
大嶽 真人 教授	コーチング学、スポーツ方法学（サッカー）

教員名	専門領域
小山 貴之 教授	理学療法学、スポーツリハビリテーション
野口 智博 教授	コーチング学、スポーツ方法学（水泳）
松本 恵 教授	スポーツ栄養学
水上 博司 教授	スポーツ社会学、スポーツマーケティング論、スポーツ方法学（バレーボール）
水島 宏一 教授	コーチング学、スポーツ方法学（体操競技・器械運動）
伊佐野 龍司 准教授	体育教育学、スポーツ教育学、学校保健教育

履修系統図



入学者受入方針 （アドミッション・ポリシー）

教育学専攻は、その学位授与方針に基づき、教育学・体育学及び関連分野の専門的な知識・技能を修得することを通じて実践的な知識と深い洞察力を備えようとする学生を求めており、研究者や教育者として広く社会に貢献できる意欲と熱意のある学生を受け入れます。具体的には、次のような学生の入学を希望します。

【博士前期課程】

- ・知的探究に自主的に取り組み、創造的な発想や思考を追究する学生
- ・真理を追究する強い情熱と忍耐力を持ち、ねばり強く研究を推進していく学生
- ・十分な基礎学力と教養を持ち、新しい知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・教育学あるいは体育学の特定の専門知識を有し、高度、かつ、専門的な知識を活かした職業人、加えて社会への貢献を目指す学生

【博士後期課程】

- ・教育学あるいは体育学の特定の課題に強い関心を持ち、その知的な探究に意欲を持つ学生
- ・教育学あるいは体育学における理論的又は実証的研究に自主的に取り組み、創造的な発想・思考を追究する学生
- ・教育学あるいは体育学における十分な知識を持ち、また、隣接領域とともに知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・教育学あるいは体育学の特定の専門知識を有し、高度、かつ、専門的な研究職に従事することを旨とする学生

教育課程編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）

教育学専攻では、主として教育学を学ぶ教育学コースと主として体育学を学ぶ体育学コースの二つの分野を置いており、学生は、入学時にそれぞれ主とする分野を決めることになります。本専攻は、教育学・体育学に関する多様な知識や理論、課題や手法などに関する幅広い科目を開講し、教育あるいは体育の特定の課題を深く掘り下げ、新たな知見を導き出すための能力が身につくような教育課程の編成を行い、多様化する知識基盤型社会で求められる、高度な専門性、幅広い教養並びに高い倫理観を形成できるようにしています。【博士前期課程】では、1年次から指導教員を決め、教育学・体育学研究についての基礎知識の修得及び修士論文執筆のための課題設定の方法についての個別指導を行うとともに、授業科目の修得により、教育学及び体育学の体系的な知識を得ることができるよう配慮しています。【博士後期課程】では、一定水準の研究能力を基盤にし、特定の指導教員のもとで、自立した研究者になるための研究指導を行います。その力点は、学生が独自に課題の設定からその解決ができるようになることです。指導教員を中心に論文作成に関するアドバイスはもとより、研究発表のためのプレゼンテーション能力の強化にも努め、学会発表や学会誌論文作成の手助けを行い、博士論文完成へと指導します。

学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）

教育学専攻では、教育学及び体育学の専門的な知識・技能と研究能力を基盤にしなが、現代社会が提起する教育の諸問題に取り組むための広い視野を備え、専門的知識と論理的な考察力をもって広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

【博士前期課程】

在学期間を通じて、教育学・体育学の専門知識を修得し、論理的思考能力と問題解決能力を身につけ、自己の身につけた知識と能力を実社会に還元しようとする姿勢をもてることが、課程修了の基準です。そのために、在籍期間中に教育学専攻が指定した科目を必要単位以上に修得した上で、指導教員のもとで専門分野の研究を行い、修士論文を執筆することが求められます。

【博士後期課程】

在学期間を通じて、教育学・体育学の研究者として自立するため、非常に多岐にわたり、かつ、複雑な教育学や体育学に関する高度な専門知識を身につけ、独力で新たな諸課題をみつけ、解決を図るようになることが修了の条件です。その上で、指導教員のもとで所定在学期間研究に従事し、専門学会などにより一定の評価を受けた上で博士論文を執筆することが求められます。

修了生の進路

- 日本大学
- 日本スポーツ協会
- 大阪シティ信用金庫
- 日本大学付属高等学校
- 皇宮警察本部
- 東京医療保健大学
- 中学校・高等学校教員
- ナショナルトレーニングセンター
- 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
- 国立スポーツ科学センター
- (独)国際協力機構
- サッポロビール（株）

心理学専攻

専攻の概要

博士前期課程

心理学コース

臨床心理学コース

前期課程心理学コースでは、専門分化した心理学の知識全体を俯瞰しながら、「専門的知識の獲得」「研究の実践」「研究発表」「公認心理師資格の取得」の4つの柱により、専門家として学問の進展に寄与できる人材を育成します。本コースでは基礎から応用まで多彩な講義科目が開講されており、幅広い知識を獲得することができます。また、実験室を始めとする多くの研究設備が整っており、大学院生は教員の指導のもと、各領域における最先端の研究を行っています。加えて、研究発表のスキルを獲得するために、大学院生全員と専任教員が参加する大学院研究発表会が開催され、活発な討議が行われています。さらに、心理学コースでは、2019年度より公認心理師プログラムを設置し、公認心理師受験資格取得に必要な科目を開講しました。大学等で必要な科目を修めた上で、本コースの公認心理師プログラムを履修し、所定の科目を修めると公認心理師の受験資格が得られます。

前期課程臨床心理学コースでは、臨床心理学の学習課題を体系的に履修し、臨床心理学研究と心理臨床実践の両面について指導を受けます。本コースは、心理学を土台に、臨床・研究・教育のバランスのとれた心理臨床家を養成することを基本方針とし、講義や研究発表など多くの活動を心理学コースとともに進めます。本コースの必修科目は、実習とそれを支える基礎臨床科目で構成され、日本大学文理学部心理臨床センターにおける学内実習が1年次前期修了後よりスタートし、2年次にはそれに加え学外実習が行われます。本コースは公認心理師カリキュラムに対応しており、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定校に認定されているので、それぞれの必要な科目を履修して修了すると、「公認心理師」と「臨床心理士」の受験資格を得ることができます。*ただし、公認心理師については、学部にて特定の科目を履修していることが必要です。

博士後期課程

後期課程では、本学大学院若しくは他大学の博士前期課程（修士課程）を修了した学生に対し、さらに高度な研究指導を行います。今後更なる発展が予想される心理学の諸領域、あるいは心理学の関連領域において高度な先端研究を自律的に遂行する能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことで、世界の発展に貢献できる人材を養成します。そのため後期課程では、研究活動を積み重ねることによって得られた研究成果に対し、学術論文の投稿を含め学内外において活発に研究発表を行うことが求められます。在学中に学位論文を提出し、審査に合格すると博士（心理学）の学位が授与されます。

主な開講科目

社会心理学特論

社会的認知研究を授業テーマとして、最近の発展をレビューしながら、実証的古典論文を批判的に講読する。受講者が関心を持つ古典論文について発表し、全員で討議を行う。

臨床心理学特論 1

臨床心理学とは何か、心理療法とは何かについて具体的なイメージを持つことができるようにするため、受講者一人ひとりの発表を基本とする授業を行う。

心理学研究法特論

研究の方法論を基本から応用まで横断的に理解し、研究計画立案や分析で誤りやすい点について学ぶことで、心理学における科学的な思考法や研究法の特徴を知るとともに、自身の研究活動に活かせるようになることを目標とする。

臨床心理査定演習 1（心理的アセスメントに関する理論と実践）

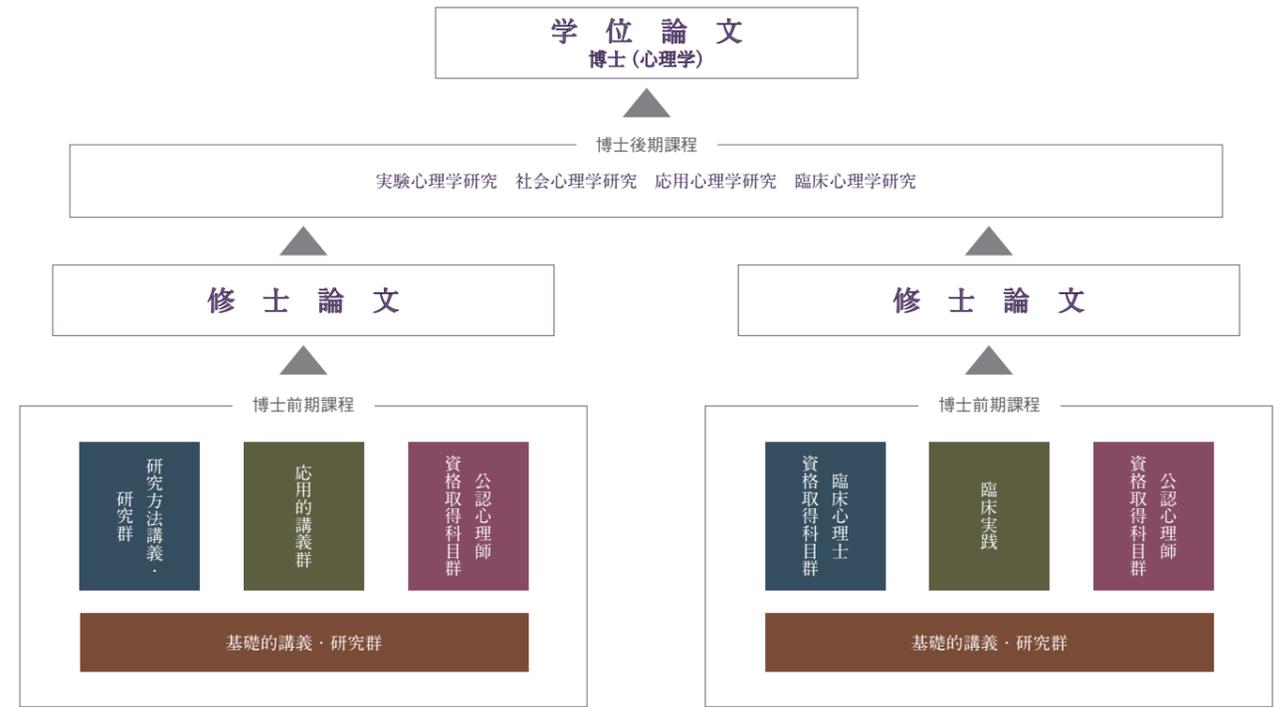
心理テストバッテリーの考え方の基本を学び、ロールシャッハテストとその他のテストを組み合わせて実施したデータを持ち寄りて解釈を行う。

教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○岡 隆 教授	社会心理学
○岡田 和久 教授	臨床心理学
○菊島 勝也 教授	臨床心理学
○坂本 真士 教授	社会心理学、臨床社会心理学
○津川 律子 教授	臨床心理学、精神保健学
○内藤 佳津雄 教授	認知心理学、高齢者の心理
○羽生 和紀 教授	環境心理学

教員名	専門領域
○山口 義枝 教授	臨床心理学
○依田 麻子 教授	健康心理学、精神生理学
河野 千佳 准教授	臨床心理学
齋藤 慶典 准教授	生理心理学
松浦 隆信 准教授	臨床心理学、臨床社会心理学
望月 正哉 准教授	認知心理学、教育心理学



履修系統図 (心理学コース)

履修系統図 (臨床心理学コース)

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

心理学専攻では、今後更なる発展が予想される心理学の諸領域、あるいは関連領域において求められる高度な学識と技能を有することで、学問の進展に寄与し、専門的職業に従事する人材を育成することを教育目的とします。本専攻ではこの目的のもと、心理学を独創的に社会へ還元することの意欲と適性を有する次のような学生の入学を希望します。

【博士前期課程】心理学コース
心理学の専門家として学問の進展に寄与するために、基礎学力を有しつつ、専門・分化した心理学の知識の全体を俯瞰しながら、自主的に研究する意欲的な学生を迎え入れます。

【博士前期課程】臨床心理学コース
心理学に関する基本的な知識と技能を有していることを前提とします。その上で、臨床心理学の学修課題を体系的に履修し、心理臨床実践と臨床心理学研究の両面において実際に遂行する意欲を持った学生を迎え入れます。

【博士後期課程】
心理学領域及び関連領域において国際的、かつ、先端的な研究指向性を有し、研究・教育あるいは高度に専門的な業務に従事して世界の発展に貢献しようとする学生を迎え入れます。

教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

心理学専攻は、心理科学及び臨床心理学の学問分野を柱に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを通して、有能な人材を養成します。

【博士前期課程】心理学コース
心理学の幅広い領域の講義科目を履修することによる「専門的知識の獲得」、高度な研究環境の中での活発な「研究活動の実践」、自身の研究成果を適切に発表し討議するための能力を身につけるための「研究発表」を軸として、心理学の専門家として高水準の知識とスキルを身につけられるカリキュラムを編成しています。

【博士前期課程】臨床心理学コース
心理学を土台とし、臨床・研究・教育のバランスのとれた臨床心理職者の養成を基本方針とします。必修科目は、学内・学外における実習とそれを支える多彩な臨床心理学関係科目で構成されています。また、学内実習の場でもある心理臨床センターでは、地域貢献活動を通してさまざまな実践経験を積みます。

【博士後期課程】
専攻分野における研究者として自立した研究活動を行い、更に高度な研究能力及び研究活動の基礎となる豊かな学識を養いながら将来の心理学界を担うべき人材を養成しうるカリキュラムを編成し実施します。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理学専攻では、十分な心理学の知識と技能を基盤として、多面的、かつ、総合的な思考力と実社会における問題解決力を持ち、社会からの附託に応えられる人材を輩出することを目的としています。

【博士前期課程】
専門分野における幅広い学識と研究法を修得し、将来的に専門的職業を担うことができる能力を有していることが課程修了の基準です。

【博士後期課程】
専門とする当該研究分野における専門的知識、方法論、理論等に精通し、自ら研究課題を発見し、その課題を創造的に解決できる高度な専門性を身につけるとともに、新たな心理学研究を創出する能力を有していることが課程修了の基準です。



修了生の進路

- 大阪産業大学
- 国立精神・神経医療研究センター
- 神奈川県庁
- 警視庁
- 静岡福祉大学
- 順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター
- 東北文化学園大学
- (株) オリエンタルランド
- 日本大学医学部付属板橋病院
- (株) JTB
- (株) 博報堂

奨学金・研究奨励費制度 (概要)

日本大学大学院文学研究科では、大学院生の勉学意欲に応えるための支援制度として、様々な奨学金制度、研究奨励費制度等を設け、多くの学生がこの制度を利用して研究に励んでいます。

01 日本大学の奨学金制度

名称	対象	金額	給付・貸与
古田奨学金	学業成績が優秀で人物が優れている者	20万円	給付
ロバート・F・ケネディ奨学金	学業成績が優秀で人物が優れている者	20万円	給付
日本大学創立100周年記念 外国人留学生奨学金	外国人留学生で学業成績が優秀で 人物が優れている者	授業料相当額 の半額	給付

02 文学研究科・文理学部の奨学金制度

名称	対象	金額	給付・貸与
文理学部奨学金 (第1種)	学業成績が優秀で人物が優れている者	40万円	給付
文理学部奨学金 (第2種)	外国人留学生で学業成績が優秀で 人物が優れている者	40万円	給付
大学院生特別奨学金	古田奨学生、ロバート・F・ケネディ奨学生	授業料相当額	給付
後援会奨学金	経済的理由により学費等の支弁が困難な者	24万円	給付
校友会奨学金	経済的理由により学費等の支弁が困難な者	24万円	給付

04 日本学生支援機構奨学金制度

独立行政法人が運営する、貸与型の奨学金制度です。例年4月上旬に募集説明会を行います。家計状況が急変し、経済的に緊急を要する場合は、随時申込を受け付けています。

05 地方公共団体・各種奨学財団の奨学金制度

出願資格などは各団体により異なります。当該団体から募集があった場合に、学生課において随時お知らせしています。

ティーチング・アシスタント(TA)、グラデュエイト・スチューデント・アシスタント(GSA) 制度等について

文学研究科大学院生の多数が、ティーチング・アシスタントとして授業担当教員の指示により学部学生の教育を補助し、実験・実習及び演習の教育補助業務に携わっています。大学院生で担当科目に対する専門的知識及び高度な技量を持つことを資格とし、事前講習等でTA業務に関する指導を受け、教育補助業務に従事します。TA業務を通じて、将来教育職・研究職を目指す際の貴重な経験を蓄積することができます。また、担当科目の内容を理解し、その遂行に熱心な大学院生を対象とするGSA制度もあります。さらに、学生の自主的学習スペースである「ラーニングコモンズ」の学習アドバイザー「ラーニング・アシスタント」(LA)を担当することもできます。

大学院文学研究科大学院生の主な留学先 (海外学術交流協定校)

華東師範大学
(中国)

ヨハネス・グーテンベルク大学
(ドイツ)

ベルリン自由大学
(ドイツ)

大学院文学研究科の関与する研究所

大学院文学研究科の関与する研究機関として日本大学人文科学研究所、情報科学研究所があります。人文科学研究所では紀要の発行のほか、総合研究・共同研究など数多くのプロジェクトが活動を続けています。さらに理系の研究者と共同研究を行う情報科学研究所では、学内研究資金のほか、文部科学省等の学外研究に採択され、資金を獲得するなど、より一層発展、拡充した成果の追究を行っております。

若手研究者育成制度

独立行政法人日本学術振興会特別研究員と併せて、次世代を担う若手研究者を育成するための大学院文学研究科独自の制度として、若手特別研究員(ポスト・ドクトラル・フェロー)制度により学位取得後の研究者支援を行っております。

教育職員免許状取得

大学院博士前期課程を修了して取得できる教育職員免許状は、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状です。

取得できる免許状の種類は次のとおりです。

専攻	教科の種類	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
哲学	社会	公民
史学	社会	地理歴史
国文学		国語
中国学		国語
英文学		英語
ドイツ文学		ドイツ語
社会学(社会)	社会	公民
教育学(教育)	社会	公民
教育学(体育)		保健体育
心理学	-	-

研究サポート

図書館

図書館は、アナログ資料とともにデジタル資料も閲覧・調査できる施設です。現在、本図書館が所蔵する図書及び視聴覚資料の総数は約93万冊(点)。特に研究に必要な各種データベースを取り揃えており、さまざまな研究分野に対する情報検索・記事閲覧が可能です。また、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの利用も可能です。

開館時間

平日 9:00~20:00 / 土曜 9:00~19:00
 閉室日 日曜・祝日(授業実施日を除く)、
 その他大学が定める日



ラーニングコモンズとアカデミックコモンズ

1 ラーニングコモンズ

学生が自主的に学ぶ公共的な空間です。ここでは、様々な形態のテーブルや椅子が配置されています。個人で学んだり、グループで学んだり、その用途に応じて利用できます。あちこちにホワイトボードが用意されており、それに書き込み、映像を写すなど、自由に利用ができます。



2 アカデミックコモンズ

学生と教職員が談話したり、議論したりする空間で、書棚の本は読書スペース内で自由に読むことができます。



1 2 とも、曜日や時間帯によっては学部内の各部署によるイベントが行われます。



日本大学 大学院 文学研究科

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 Tel 03-5317-8497 Fax 03-5317-9444

https://www.chs.nihon-u.ac.jp/gs_lss/

『130年の輝きと共に、未来を創る』 日本大学は2019年に創立130周年を迎えました。